

兼六園周辺文化の森地域計画

目 次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	5
3. 計画区域	6
4. 基本的な方針	
4-1. 現状分析	
4-1-1. 主要な文化資源	7
4-1-2. 観光客の動向	13
4-1-3. 他の地域との比較	14
4-2. 課題	15
4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため 取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	16
4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	17
5. 目標	18
6. 目標の達成状況の評価	26
7. 中核とする文化観光拠点施設	27
8. 地域文化観光推進事業	
8-1. 事業の内容	
8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業	47
8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の 地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業	54
8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、 販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設 との連携の促進に関する事業	55
8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業	56
8-1-5. 1.～4.の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	57
8-2. 特別の措置に関する事項	
8-2-1. 必要とする特例措置の内容	59
8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等	59
8-3. 必要な資金の額及び調達方法	60
9. 計画期間	64

兼六園周辺文化の森地域計画

1. 実施体制

協議会	名称	兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会		
申請者① 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	石川県	所在地	石川県金沢市鞍月1丁目1番地
	代表者	知事 谷本 正憲		
申請者② 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	金沢市	所在地	石川県金沢市広坂1丁目1番1号
	代表者	市長 山野 之義		
申請者③ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	①石川県立美術館 ②石川県立歴史博物館	施設 所在地	①石川県金沢市出羽町2-1 ②石川県金沢市出羽町3-1
	設置者の 名称	石川県	設置者 所在地	石川県金沢市鞍月1丁目1番地
	代表者	知事 谷本 正憲		
申請者④ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	①金沢21世紀美術館 ②金沢能楽美術館	施設 所在地	①石川県金沢市広坂1-2-1 ②石川県金沢市広坂1-2-25
	設置者の 名称	金沢市	設置者 所在地	石川県金沢市広坂1丁目1番1号
	代表者	市長 山野 之義		
申請者⑤ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	国立工芸館	施設 所在地	石川県金沢市出羽町3-2
	設置者の 名称	独立行政法人 国立美術館	設置者 所在地	東京都千代田区北の丸公園3-1
	代表者	理事長 逢坂 恵理子		

申請者⑥ 文化観光推進 事業者	名称	公益社団法人 石川県観光連盟	所在地	石川県金沢市鞍月 1 - 1
	代表者	理事長 庄田 正一		
申請者⑦ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 金沢市観光協会	所在地	石川県金沢市木ノ新保町 1 - 1
	代表者	理事長 安宅 建樹		
申請者⑧ 文化観光推進 事業者	名称	公益財団法人 金沢芸術創造財団	所在地	石川県金沢市柿木畠 1 番 1 号
	代表者	理事長 佐久間 悟		

2. 事務の実施体制

全体の調整、進捗管理は「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」が行う。

計画の推進においては、文化の森一帯の文化観光拠点施設や連携する文化観光推進事業者を統一的、総合的にマネジメントできる人材を配して取り組む。将来的には、構成施設や地元関係者等の連携により持続的に取組みを進める体制の構築を目指す。

【兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会】

実行委員会は、委員長、副委員長、委員 12 名による協議組織と、事務局（石川県県民文化スポーツ部文化振興課内）で構成されており、事務局長（石川県県民文化スポーツ部文化振興課長）を含むスタッフ 18 名の事務局員が事業の実施等の業務を行っている。

- ・ 構成員：石川県・金沢市の関係課、(独法) 国立美術館、(公社) 石川県観光連盟、(一社) 金沢市観光協会
- ・ 事務局：石川県（県民文化スポーツ部文化振興課）
 - (1) 計画全体の進捗管理：石川県（県民文化スポーツ部文化振興課）
 - (2) 事業の実施・進捗管理：各事業実施主体（兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会、石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公社) 石川県観光連盟、(一社) 金沢市観光協会）
 - (3) データ収集：石川県（県民文化スポーツ部文化振興課、観光戦略推進部観光企画課）、金沢市（文化スポーツ局文化政策課、経済局観光政策課）(公社) 石川県観光連盟、(一社) 金沢市観光協会

3. 計画区域

「兼六園周辺文化の森」：兼六園周辺を中心とした半径約1kmの文化施設・歴史的建造物が集積する文化ゾーン。



4. 基本的な方針

4-1. 現状分析

4-1-1. 主要な文化資源

江戸時代、百万石を誇った加賀藩は徳川家に次ぐ財力を文化や工芸といった文化政策に注いだ。特に三代藩主前田利常は、傑出した文化大名であり、武具の修理等を行っていた「御細工所」を大名調度の製作と修復を行う工房へと転換し、工芸の振興を図るとともに、職人に能楽との兼芸を求めることで能楽を奨励した。そして、京都や江戸から名工を招き、制作・指導にあたらせたことで、蒔絵、漆工芸、象嵌など様々な優れた工芸品が生み出された。こうした文化的伝統は、現在も脈々と息づいており、多数の人間国宝や芸術院会員を輩出している。

このような近世から現代まで息づく歴史的背景を踏まえ、「工芸」、「美術」、「建築」をテーマに据え、下記の特徴的な5つの文化施設を拠点施設として重点的に整備し、テーマに関連する連携施設を周遊することにより、国内外からの幅広い来訪者に対し、兼六園周辺文化の森の文化資源の魅力に触れていただき、充実した文化観光を提供する。

- ①本県の歴史・美術工芸の伝統を踏まえた、地域ゆかりの作品を所蔵し、前田家伝来の優れた文化財を展示公開している「石川県立美術館」
- ②加賀藩の文化政策から藩政崩壊後の工芸発展の歩みを歴史的視点で解説・展示する「石川県立歴史博物館」。建物は、国指定重要文化財 旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫
- ③近現代の工芸を含み、日本全国の工芸品を展示収蔵する「国立工芸館」。建物は、国登録有形文化財 旧陸軍第九師団司令部庁舎と旧陸軍借行社
- ④能装束や能面など能にまつわる工芸品を展示する日本で唯一の能楽専門美術館である「金沢能楽美術館」
- ⑤本物を求め、新しい文化を取り込む気風と高い美意識は現代にも脈々と息づいており、その象徴となる現代アートの殿堂「金沢 21 世紀美術館」。建物は、SANAA の設計によりプリツカー賞を受賞

これらの拠点施設において、魅力ある特別展の開催や最新技術を活用した展示解説の整備による魅力増進を図り、ハブとしての機能を充実させ、兼六園周辺文化の森に集積する『工芸』・『美術』に関連した文化施設（生活工芸を扱う「いしかわ生活工芸ミュージアム」、文化財の修復を行う「石川県文化財保存修復工房」、漆工芸の大家松田権六の資料を展示する「金沢ふるさと偉人館」、茶道具を紹介する「金沢市立中村記念美術館」、能楽の公演・体験を行う「石川県立能楽堂」）との回遊パスポートを通じた連携を図る。

また、加賀藩の「工芸」を歴史的な側面から紹介する「金沢城公園」、「兼六園」、「加賀本多博物館」、「前田土佐守家資料館」についても回遊の促進に取り組む。

そのほか、文化財を活用した施設が連携し、『建築』をテーマに地域の魅力を発信する。近代建築の国立工芸館・県立歴史博物館と、「石川四高記念文化交流館（国指定重要文化財）」、「石川県政記念しいのき迎賓館（国登録有形文化財：答申中）」、「金沢くらしの博物館（国登録有形文化財）」、現代建築である谷口吉郎氏設計の「いしかわ生活工芸ミュージアム」、谷口吉生氏設計の「鈴木大拙館」、SANAA 設計の金沢 21 世紀美術館を回遊する建築観光を促進する。

加賀藩の文化政策から受け継がれる“進化するレガシー＝文化資源”が集積する兼六園周辺文化の森において、『美術』、『工芸』、『建築』の各分野を中心にストーリー性をもって鑑賞・体験していただくことにより、石川・金沢の質の高い文化への理解を深め、満足度の高い文化観光地域の創造を目指す。

◆文化観光拠点施設「石川県立美術館」

加賀藩前田家にゆかりのある古美術品、また、石川県にゆかりのある作家を中心とする日本画、油彩画、彫刻、工芸の現代作品までバラエティーに富んだ収蔵品を誇り、豊かな地方色が個性となっている。特に工芸は、加賀蒔絵などの大名道具や古九谷から再興九谷までの九谷焼コレクション、さらに松田権六をはじめ、石川県が輩出した多くの重要無形文化財保持者（人間国宝）を中心とする作家の伝統工芸作品が充

実している。また、古美術品のなかでも特筆すべきは、稀代の文化大名として名高い3代前田利常と交流のあった京焼の祖野々村仁清の傑作である国宝「色絵雉香炉」があげられる。高度な造形技術と豪華な色彩を堪能できるよう、専用の特別室を備え、常時公開している。

特別展では、前田育徳会が所蔵する前田家伝来の宝刀や甲冑のほか、万葉集や古今和歌集などの典籍類の国宝・国指定重要文化財を一堂に集めた展覧会や俵屋宗達と琳派などの近世を特集したものから、全国的に熱狂的なファンをもつ金沢出身の洋画家鴨居玲の回顧展まで、加賀百万石に息づく美意識を体現する展覧会を数多く開催している。

【主な文化資源】

- ・ 国宝「色絵雉香炉」 野々村仁清作（工芸品）



ほぼ等身大の雉の香炉で、京焼の祖といわれる仁清の彫塑的な作品のうちでも特にすぐれている。緑、紺青、赤などの絵具と金彩で、羽毛などを美しく彩った豪華な作品で、尾を水平に保って造形、焼成するなど至難な技が駆使された作品。

- ・ 重要文化財「色絵雌雉香炉」
野々村仁清作（工芸品）



- ・ 重要文化財「色絵梅花図平水指」
野々村仁清作（工芸品）



- ・ 重要文化財「蒔絵和歌の浦図見台」
伝 清水九兵衛作（工芸品）



- ・ 重要文化財「緑地桐鳳凰文唐織」（工芸品）



- ・ 重要文化財「西湖図」
秋月等観筆（絵画）



- ・ 重要文化財「四季耕作図」
久隅守景筆（絵画）



◆文化観光拠点施設「石川県立歴史博物館」

明治末から大正初めにかけて建造された旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫を保存しながら博物館として再利用したもので、平成2年には、国指定重要文化財に指定を受け、平成3年に日本建築学会賞を受賞した赤レンガの建築物である。館内では、建物の歴史と重要文化財としての価値、魅力を堪能することができる。

藩政期に開花した加賀百万石の文化的背景を多彩な歴史資料で解説しており、加賀藩大名行列図屏風や参勤交代の全容を再現したミニチュアモデル、江戸時代の金沢城や兼六園の絵巻などの県指定文化財などを展示公開している。こうした藩政期の政治や庶民の暮らしをわかりやすい展示解説で紹介することで、石川の工芸の発展の歴史を深く理解できる。

【主な文化財】

- ・重要文化財「旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫」(建物)
- ・重要文化財「春日懐紙」(書籍・典籍)



- ・祭礼体感シアター

(3Dスクリーンで祭りの臨場感を体感)



◆文化観光拠点施設「金沢21世紀美術館」

1980年以降に制作された新しい価値観を示す作品や、1900年以降に制作された歴史的参照点となる作品、金沢ゆかりの作家の作品という観点で収集した約3,000点のコレクションを所蔵・展示するほか、「スイミング・プール」を始めとする恒久作品を美術館の建物内、敷地内に展示している。また、世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館として、時間や空間を超え、従来のジャンルを横断する様々な表現で展開される芸術活動を体感できる企画展覧会を開催している。プリツカー賞を受賞したSANAA(妹島和世氏、西沢立衛氏)設計である全面ガラス張りで開放感に満ちあふれた円形の建物自体も、金沢市の新しい文化である「建築文化」を体現する魅力ある施設であり、様々な国々から年間270万人以上の来館者を誇る。

・建物外観

SANAA（妹島和世氏、西沢立衛氏）設計



・恒久展示作品スイミング・プール
レアンドロ・エルリッヒ作



◆文化観光拠点施設「金沢能楽美術館」

金沢では、加賀藩前田家の5代藩主綱紀の頃、将軍徳川綱吉にならい宝生流を採用し、以来宝生宗家との結びつきを深めた。明治維新後、一時衰えたが、加賀宝生中興の祖・佐野吉之助氏が散逸前に能面や能装束を買い集め、近代の加賀宝生の礎を築いた。金沢能楽美術館は、この佐野家に伝わった能面や能装束の一部をコレクションの母体とし、広く能楽関係資料を収集・保存・展示する施設として開館した世界で唯一の能楽専門「美術館」である。加賀藩の進化するレガシーそのものである「伝統と創造」を象徴する施設として、金沢 21 世紀美術館に隣接して設置され、金沢市無形文化財の加賀宝生に伝わる貴重な能面や能装束の公開のほか、外国人に人気の体験展示も充実する。

・展示施設

能面、能装束等



・着装体験



◆文化観光拠点施設「国立工芸館」

日本を中心とする近現代の工芸及びデザイン作品を展示・収蔵する美術館。建物は登録有形文化財の旧陸軍第九師団司令部庁舎と旧陸軍偕行社を活用し、日本海側初の国立美術館として令和 2 年 10 月 金沢に移転開館した。

【主な文化財】

- ・重要文化財「十二の鷹」鈴木長吉作



■連携施設（兼六園周辺文化の森内）

〈工芸・美術関係施設〉

- ・いしかわ生活工芸ミュージアム
→石川の風土が育てた全 36 業種すべての伝統的工芸品を、常設展示や企画展示で紹介するとともに実演体験メニューを実施。建物は文化勲章受章者 谷口吉郎氏の設計。
- ・石川県文化財保存修復工房
→国登録有形文化財「旧陸軍第九師団長官舎」を活用した石川県立美術館広坂別館に隣接する文化財の修復作業を行う施設。修復作業を常時見学でき、修復工程の紹介映像なども充実。
- ・金沢ふるさと偉人館
→拠点施設である金沢 21 世紀美術館や国立工芸館に近接し、金沢市出身の偉人を顕彰する施設。国立工芸館で仕事場を公開する漆芸家・松田権六氏を常設展示で詳しく紹介する。
- ・金沢市中村記念美術館
→国立工芸館・県立美術館・金沢 21 世紀美術館の中核 3 施設の中間地点に位置し、茶道具を中心に所蔵展示する美術館。国立工芸館等と連携し工芸を共通テーマとした展覧会を企画。
- ・石川県立能楽堂
→能舞台は昭和 7 年に建てられた金沢能楽堂を移築したもので、年月を経て落ち着いた趣を常時見学できる。

〈加賀藩の工芸の歴史を紹介する施設〉

- ・金沢城公園
→金沢城は天正 11（1583）年に前田利家が本格的な築城を開始し、明治 2（1869）年まで加賀藩前田家 14 代の居城として使用。今後、伝統工芸が駆使されたエリアから復元予定。
- ・兼六園
→前田家 5 代藩主綱紀が蓮池庭を造営したのが始まりで、林泉回遊式の江戸時代を代表する大名庭園。日本三名園のひとつに数えられ、毎年多くの観光客が訪れる観光名所。
- ・加賀本多博物館
→加賀藩の筆頭家老を務め、5 万石を与えられた加賀本多家伝来の鎧や刀剣、工芸調度品などを所蔵・展示し、武家文化を伝える施設。県立歴史博物館と同じく国指定重要文化財「旧金澤陸軍兵器支廠」に入り、両館併せて「いしかわ赤レンガミュージアム」の愛称で親しまれる。
- ・前田土佐守家資料館
→加賀藩の重臣・前田土佐守家所蔵の資料を多数保管、展示する施設。兼六園周辺文化の森への周遊を促す加賀百万石回遊ルートのスタート地点である長町武家屋敷に位置し、近年、多くの外国人観光客が訪れる。

〈近現代建築関係施設〉

- ・ 石川四高記念文化交流館
→旧制四高の歴史と伝統を紹介する「石川四高記念館」と、石川県ゆかりの文学者を紹介する「石川近代文学館」で構成される。国指定重要文化財「旧第四高等中学校本館」の建物を活用しており、建築当初の外観や間取りが今も残されている貴重な近代建築を観ることができる。
- ・ 石川県政記念しいのき迎賓館
→樹齢約 300 年（国指定天然記念物）の堂形のシイノキをシンボルに、大正時代に建てられた「旧石川県庁舎本館」をリニューアルした憩いの施設。兼六園周辺文化の森エリアの総合案内所としての役割を持つ。
- ・ 金沢くらしの博物館
→国指定重要文化財「旧石川県第二中学校本館」を活用した金沢の生活を伝える博物館。左右両翼の尖塔が特徴の明治時代の西洋風木造学校建築を今に残した貴重な建物として、兼六園周辺文化の森における建築巡りツアーを支える施設。
- ・ 鈴木大拙館
→金沢が生んだ仏教哲学者・鈴木大拙の考えや足跡を伝える施設で、来館者自らが思索に浸る空間。建築家・谷口吉生氏の設計で、建築物そのものが「作品」として人気が高く、開館以来、多くの外国人観光客が訪れる。

計 13 施設

【主な文化財】

〈国指定重要文化財〉

（書籍・典籍）

- ・ 手鑑 後鳥羽天皇宸記以下二百一葉（市立中村記念美術館）
- ・ 夢窓疎石墨蹟 偈語 貞和五年（市立中村記念美術館）
- ・ 紙本墨書恵慶集 下 附同書上 平目地蒔絵文様笥（市立中村記念美術館）
- ・ 平家重筆懐紙（市立中村記念美術館）
- ・ 藤原重輔筆懐紙（市立中村記念美術館）

（建造物）

- ・ 金沢城石川門表門、表門北方太鼓塀、表門南方太鼓塀、櫓門、続櫓、櫓、附属左方太鼓塀、附属右方太鼓塀、三十間長屋、土蔵 計 10 棟（金沢城公園）
- ・ 成巽閣（兼六園）
- ・ 金沢くらしの博物館「旧石川県第二中学校本館」

〈国登録有形文化財〉

（建造物）

- ・ 石川県立美術館広坂別館「旧陸軍第九師団長官舎」

〈現代建築〉

- ・ いしかわ生活工芸ミュージアム（谷口吉郎設計）
- ・ 鈴木大拙館（谷口吉生設計）

4-1-2. 観光客の動向

R1 年の金沢地域の旅行者数は 1,068 万人で、北陸新幹線が金沢に開業した H27 年以降、旅行者数は 1,000 万人以上で推移しており、新幹線の開業効果は持続していると考えられる。

R 元年における日本人旅行者の金沢への再訪割合は 51.3% であり、宿泊者は春 (3~5 月) と秋 (8~11 月) に多く、冬 (12~2 月) と夏休み前 (6, 7 月) はやや少ない傾向にある。

また、8 割が市内に宿泊し、うち 1 泊が 7 割を占めており、目的地は兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館、ひがし茶屋街、近江町市場に集中している。

なお、R1 年の外国人宿泊者数は 61.3 万人で、H26 年 (20.1 万人) の 3 倍以上に急増している。国・地域別の傾向をみると、日本全体の傾向と比べて欧米豪の割合が高い。外国人旅行者の約 4 割が 2 泊、3 割が 1 泊の滞在であり、目的地は兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館、ひがし茶屋街、近江町市場のほか、長町武家屋敷や寺院群にも多くの来訪がある。

1. 金沢市内の主要観光施設 年間来訪者数 (外国人を含む)

(対象施設：兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館、石川県立美術館など 19 施設)

単位：千人

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
利用者数	5,979	9,033	9,491	9,032	9,048	9,155

(引用：金沢観光調査結果報告書)

2. 金沢市内の年間宿泊客数

単位：千人

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
日本人	2,549	2,649	2,689	2,745	2,783	2,818
外国人	201	256	396	448	522	613
合計	2,750	2,905	3,085	3,193	3,305	3,431

(引用：金沢観光調査結果報告書)

3. 兼六園周辺文化の森の年間来訪者数

単位：千人

施設	H26		H27		H28		H29		H30		R1	
	うち外国人		うち外国人		うち外国人		うち外国人		うち外国人		うち外国人	
県立美術館	411	—	448	—	467	—	433	—	530	3	404	3
県立歴史博物館	—	—	185	1	169	1	156	1	188	1	152	1
金沢 21 世紀美術館	1,679	—	—	30	2,554	34	2,373	45	2,581	47	2,335	39
金沢能楽美術館	30	—	50	—	44	3	38	3	39	4	35	4
国立工芸館	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,120	0	683	31	3,234	38	3,000	49	3,338	55	2,926	47

※有料エリアと無料エリアをあわせた入場者数

※県立歴史博物館はリニューアルにより平成 26 年休館。これ以外の一は集計なし。

※直近の国立工芸館の入場者数：31 千人 (R2.10~R3.1)

4. 発地別外国人宿泊客割合（地域別）

構成比：％

発地	H29	H30	R1
北米	10.1%	9.4%	9.1%
中南米	0.9%	1.0%	0.9%
ヨーロッパ	18.6%	21.3%	19.8%
オセアニア	4.8%	5.1%	5.4%
アフリカ	0.2%	0.1%	0.2%
アジア	53.0%	53.2%	52.0%
中近東	1.5%	1.6%	1.5%
不明	11.0%	8.3%	11.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

（引用：金沢観光調査結果報告書）

5. 発地別外国人宿泊客割合（国）

構成比：％

	H29		H30		R1	
	国	構成比	国	構成比	国	構成比
1位	台湾	20.9%	台湾	19.8%	台湾	19.8%
2位	香港	10.0%	中国本土	9.8%	中国本土	11.7%
3位	アメリカ	8.4%	香港	9.2%	香港	7.9%
4位	中国本土	8.3%	アメリカ	7.9%	アメリカ	7.7%
5位	オーストラリア	4.5%	オーストラリア	4.7%	オーストラリア	4.7%

（引用：金沢観光調査結果報告書）

北陸新幹線が開業したH27年に、主要施設の年間来訪者数は大幅に増加（対前年比+51%）した一方、金沢21世紀美術館など特定の施設に来訪が集中していることが課題であるため、文化観光を推進し、文化的関心の高い旅行者を周辺の施設に回遊させる取り組みが必要である。

また、年間宿泊者数は新幹線開業前から微増（対前年比+6%）に留まっているため、ナイトミュージアムの開催など夜も楽しめるコンテンツを充実させ、市内宿泊者を増加させる取り組みを強化し、地域における消費拡大を図る必要がある。

発地別外国人の割合は、台湾や中国、香港を中心としたアジア圏からの入り込みが半数を占めているが、全国の観光地に比べ、欧米豪からの来訪者割合が高いため、これらの外国人観光客から期待値の高い、「日本の伝統文化」や「伝統工芸」の文化資源を積極的に活用し、この地でしか味わえない高付加価値体験コンテンツの造成が必要である。

4-1-3. 他の地域との比較

【兼六園周辺文化の森エリアの強み】

○兼六園を中心とする半径1km圏内に、金沢21世紀美術館や金沢城公園、近江町市場など県内有数の観光スポットが存在するとともに、多くの文化施設が集積しているため、周辺施設が連携することにより、回遊性の向上につながりやすい。

○北陸新幹線金沢駅から3kmと交通の要所からアクセスがよく、新幹線開業に伴い、多くのホテルが建設されたエリアからも徒歩圏内に位置しているため、ホテルとのタイアップによる宿泊客の誘客が効果的である。

○藩政期から受け継がれた、「工芸」や「伝統芸能」など本県ならではの文化を観て・体感することができる文化の集積地である。

- ・工芸：国立工芸館、県立美術館、いしかわ生活工芸ミュージアム、市立中村記念美術館
- ・伝統芸能：金沢能楽美術館、県立能楽堂

○江戸時代から現代に至るまで魅力的な建築物が集積しており、アーキテクチャーツーリズムに適した地域である。

- ・近世：金沢城公園、兼六園、成巽閣
- ・近代：国立工芸館、県立歴史博物館、石川四高記念文化交流館、石川県政記念しいのき迎賓館、金沢くらしの博物館、県立美術館広坂別館
- ・現代：金沢21世紀美術館、鈴木大拙館、いしかわ生活工芸ミュージアム

【兼六園周辺文化の森エリアの弱み】

○兼六園や金沢21世紀美術館など一部施設にオーバーツーリズムが発生し、観光客の満足度が低下すると同時に、これらの文化施設や公共交通の混雑、道路の渋滞といった悪影響を地域住民が実感する傾向にある。その一方で、周辺施設への周遊が限定的な傾向にある。

○金沢21世紀美術館や兼六園など、外国人をはじめとした観光客に人気の文化資源を有している一方、高付加価値体験を提供するコンテンツが不足している。

○公の文化施設から周辺の店舗や商店街に回遊させる取り組みや、夜も楽しめるコンテンツが不足しており、金沢駅や香林坊周辺の宿泊施設に滞在し金沢を深く堪能する仕組みが不足している。

4-2. 課題

課題1【観光都市の形成と市民生活の調和】

金沢を訪れる旅行者の目的地が、兼六園や金沢21世紀美術館など特定の文化・観光施設に集中しているため、当該エリアに居住する住民の生活に一部支障が出ている。特定の施設への集中を解消するため、旅行者の来訪時間を分散させるほか、計画地域内の他の施設への周遊を促し、持続可能な観光都市の形成が必要である。

課題2【誘客を促進するための魅力的な展示と理解を深める解説コンテンツの充実】

文化施設を観光拠点施設として位置付けて誘客を図るには、施設の魅力を底上げすることが不可欠であり、本県ゆかりの名品などを借用した集客力のある展示と、最新技術を活用した解説コンテンツを充実させ、より深く文化資源を理解してもらえる仕組み作りが必要である。

課題3【高付加価値体験を提供するコンテンツの不足】

北陸新幹線が金沢に開業したH27年以降、着実に観光客が増加する一方、飲食費や土産代などの消費額が伸び悩んでいる。コロナ終息後に回復が見込まれるインバウンドを取り込むため、金沢を訪れる割合の高い欧米豪の訪日外国人に訴求効果が高く、この地でしか味わえない高付加価値体験を提供するコンテンツを造成し、地元への経済波及効果を拡大させる施策が必要である。

課題4【快適に金沢の文化観光を楽しめる環境整備】

公共交通の利便性の向上をはじめ、各種案内・解説の多言語化や公衆無線LANの整備など、旅行者が快適に金沢に滞在できるよう整備を進めてきたが、完全とは言えない状況であるため、観光客のニーズに対応した更なる環境整備が必要である。

4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

【取組を強化すべき事項】

<取組強化事項1>

「魅力ある展覧会の開催と最新技術を活用した新たなコンテンツの造成による地域内の文化資源の磨き上げ」(課題2関連)

・集客力のある展覧会の開催

→文化観光拠点施設を中心に各施設が連携して、共通テーマを設け、集客力のある展覧会を企画。
R3年度は国際北陸工芸サミットの開催期間を中心に、本県の強みである「工芸」をテーマに、県立美術館、県立歴史博物館、国立工芸館において、国立美術館等から工芸の名品を借用し展覧会を開催する。

・最新技術を活用した展示解説の充実

→県立美術館では、国宝や重要文化財を中心に所蔵品をVRで紹介するコンテンツを造成し、作品の制作過程や、歴史・ストーリーを映像でわかりやすく再現する。
→金沢21世紀美術館や金沢能楽美術館等では、AR技術を活用したスマートフォン用アプリケーションにて、展示品と一緒に視聴できる映像や音声等を用いて展示品の解説強化を図る。
→国立工芸館では、人間国宝等の技を細部まで鑑賞してもらうため、8K映像で工芸作品の内面や裏面を詳細に鑑賞できるタッチパネルの3D映像システムを充実させる。

<取組強化事項2>

「文化観光拠点施設を中心とした回遊性の向上」(課題1関連)

・展覧会における相互割引の実施

→周辺文化施設の回遊を促進し、有料入館者の増加を図るため、各施設が連携し共通テーマを設けた展覧会を開催するとともに、展覧会の相互割引を実施する。

・文化施設の周遊を促すイベントの開催

→県立美術館、県立歴史博物館、国立工芸館の展覧会を学芸員の解説付きで巡るガイドツアーを開催し、文化施設の魅力を一層理解していただくとともに、展覧会の周遊を促す。
→展覧会で作品を鑑賞するだけでなく、実際に「工芸」の制作を体験してもらうためのワークショップイベントを県立美術館や県立歴史博物館、国立工芸館など各文化施設を会場に開催する。

<取組強化事項3>

「文化観光推進事業者と連携した高付加価値を提供するコンテンツの充実」(課題3関連)

・金沢が培ってきた文化や歴史を活用したこの地ならではの上質な体験コンテンツを充実

→金沢21世紀美術館において、普段閉館している夜間を利用し、事前申込観覧者を対象にした特別感のあるナイトミュージアムを開催する。
→鈴木大拙館でしか体験できない、早朝の思索体験イベントを開催する。
→金沢能楽美術館において、能装束の着装や楽器の体験がセットになったミニ能楽体験プログラムを実施する。

- ・金沢 21 世紀美術館や金沢能楽美術館において、街中のクラフト店舗との展示協力や、近隣商店街との連携により、観光客を市内に誘導する仕組みを構築する。

<取組強化事項 4 >

「文化観光拠点施設における来訪者受入環境の強化」（課題 1、4 関連）

- ・ネイティブによる展示解説の多言語化
 - 県立美術館、県立歴史博物館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館において、金沢の文化や展示の内容を理解した翻訳家が、作品の背景やストーリーをわかりやすく外国人に伝える解説を整備する。
- ・市民、旅行者、国籍を問わず誰もが快適に金沢のまちと文化を楽しめる環境を整備
 - QRコード決済の追加などキャッシュレス決済の充実と、公共シェアサイクルの拡充を図り、観光客の利便性を向上させる。
 - 金沢 21 世紀美術館や金沢能楽美術館等において、待ち時間の短縮や効率的な回遊を促すため、デジタルチケット化を促進する。

こうした取組みにより、文化観光拠点施設の機能を強化し、観光誘客の底上げとエリア全体の回遊性の向上を図る。

4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

「兼六園周辺文化の森」は、金沢市内の主要な観光地である兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館を含む多くの文化施設と歴史的建造物、緑豊かな緑地で形成されており、藩政期から連綿と続く「美術」、「工芸」、「建築」といった文化遺産の「伝統」と、新たな文化の「創造」が共存する石川県の文化の中心地である。

しかし、当該地域内の兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館は、それぞれ年間 200 万人以上の方が訪れる一方、隣接する周辺施設への波及効果が限定的であり、地域全体の来訪者数の底上げを目指すとともに、周辺施設の更なる魅力アップと、相互連携による回遊性の向上が必要である。

文化振興を観光振興に繋げるためには、展示内容の充実をはじめ、最新技術を活用した展示解説の充実や、多言語化といった施設の整備に加え、金沢 21 世紀美術館などで顕在化しているオーバーツーリズムにしっかり対応することで、「持続可能な観光」を確立し、観光客の満足度の向上を図ることが重要であり、課題解決のために文化観光推進事業者と積極的に連携し、当該計画の取り組みを進めていく。

ショッピングや飲食店、宿泊施設といった地域での消費を拡大させるため、公と民間の垣根を超え、美術館・博物館とギャラリーや産地を繋ぐ導線の構築、伝統工芸をはじめとした金沢の地でしか味わえない本物志向の「高付加価値体験」を提供し、拡大した経済効果を地域の文化資源の保存・活用に再投資を図る。

これにより、文化施設の魅力が向上することで、観光客の満足度が更に上がり、文化に関心が高い層が今まで以上に金沢に注目することが期待される。日本のみならず、世界から注目を集める文化都市となることで、地域の文化レベルが上がり、住民の本県文化に対する理解と愛着の深化が期待され、観光客だけでなく、地域住民の満足度向上にも繋がる文化観光施策の好循環を目指す。

5. 目標

目標①：来訪者数（課題1、2関連、取組強化事項1、2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

中核とする文化観光拠点施設の来訪者数を指標とする。R3年は、R2年に新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ来訪者数をR1年の水準に回復させ、その数値を基準としてR7年に20%増加することを目指し、各年の目標値を定める。

年度	実績		目標				
	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
目標値 (単位：千人)	2,926	集計中	2,900	3,000	3,150	3,300	3,480
事業1-①： 地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会開催事業			・県立美術館において「加賀百万石文武の誉れ展」、「大樋陶治齋の世界展」、「北陸三県名品展」を開催 ・県立歴史博物館において「大加州刀展」、「尾張徳川家の至宝展」を開催 ・国立工芸館において所蔵作品展 企画展の開催	・地域内の文化施設が連携し、共通テーマを設けた展覧会を開催	・国民文化祭にあわせて宮内庁三の丸尚蔵館の特別展を県立美術館と国立工芸館において共同開催	・金沢21世紀美術館において開館20周年記念展を開催	・地域内の文化施設が連携し、共通テーマを設けた展覧会を開催
事業1-⑥： 文化資源を活用した工芸文化の魅力発信事業			・国際北陸工芸サミットが開催される秋を中心に、「工芸」を共通テーマとした展覧会を各施設	・「工芸」を共通テーマとした展覧会を各施設が連携して開催 ・学芸員の解説付き	・「工芸」を共通テーマとした展覧会を各施設が連携して開催 ・学芸員の解説付き	・「工芸」を共通テーマとした展覧会を各施設が連携して開催 ・学芸員の解説付き	・「工芸」を共通テーマとした展覧会を各施設が連携して開催 ・学芸員の解説付き

			<p>が連携して開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の解説付きで展覧会を巡るガイドツアーの開催 ・全国の工芸を紹介する伝統工芸制作体験ワークショップの開催 ・全国の人間国宝によるリレー講演会の開催 ・国立工芸館移転開館記念1周年記念イベントの開催 	<p>で展覧会を巡るガイドツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の工芸を紹介する伝統工芸制作体験ワークショップの開催 ・全国の人間国宝によるリレー講演会の開催 	<p>で展覧会を巡るガイドツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の工芸を紹介する伝統工芸制作体験ワークショップの開催 ・全国の人間国宝によるリレー講演会の開催 	<p>で展覧会を巡るガイドツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の工芸を紹介する伝統工芸制作体験ワークショップの開催 ・全国の人間国宝によるリレー講演会の開催 	<p>で展覧会を巡るガイドツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の工芸を紹介する伝統工芸制作体験ワークショップの開催 ・全国の人間国宝によるリレー講演会の開催
<p>事業1-⑦： 文化資源を活用した建築文化の魅力発信事業</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の近代建築物を解説付きで周遊するレトロ建築巡りツアーをトライアルで開催 ・対象施設において建築資料の展示や建物解説パンフレットの作成配布 ・建築ボランティアガイド養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロ建築巡りツアーの本格実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロ建築巡りツアーの本格実施 ・金沢 21 世紀美術館や鈴木大拙館などの現代建築も対象施設として検討 ・建築ボランティアガイド養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロ建築巡りツアーの本格実施 ・近代建築コースのほかに現代建築コースなど幅を持たせたコースの造成を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロ建築巡りツアーの本格実施 ・現代建築巡りなど新たなツアーをトライアルで実施 ・建築ボランティアガイド養成講座の開催

<p>事業2-②： 相互割引による展覧会 誘客促進事業</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・国立工芸館、県立美術館、県立歴史博物館、いしかわ生活工芸ミュージアム、金沢21世紀美術館、市立中村記念美術館、金沢ふるさと偉人館の「工芸」に関連した7施設で展覧会の相互割引を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設の追加を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設の追加を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設の追加を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象施設の追加を検討
<p>事業4-②： 兼六園周辺文化の森の 一体的な情報発信事業</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の全ての文化施設の展覧会や催しを網羅したイベントガイドを季節ごとに作成し配布 ・近隣の宿泊施設と連携し宿泊客への売り込みを強化 ・開催中の展覧会やイベントの情報を掲載した看板を作成し設置 ・首都圏等の旅行代理店を対象に地域の魅力を売り込むプロモーション会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の全ての文化施設の展覧会や催しを網羅したイベントガイドを季節ごとに作成し配布 ・近隣の宿泊施設と連携し宿泊客への売り込みを強化 ・開催中の展覧会やイベントの情報を掲載した看板を作成し設置 ・首都圏等の旅行代理店を対象に地域の魅力を売り込むプロモーション会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の全ての文化施設の展覧会や催しを網羅したイベントガイドを季節ごとに作成し配布 ・近隣の宿泊施設と連携し宿泊客への売り込みを強化 ・開催中の展覧会やイベントの情報を掲載した看板を作成し設置 ・首都圏等の旅行代理店を対象に地域の魅力を売り込むプロモーション会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の全ての文化施設の展覧会や催しを網羅したイベントガイドを季節ごとに作成し配布 ・近隣の宿泊施設と連携し宿泊客への売り込みを強化 ・開催中の展覧会やイベントの情報を掲載した看板を作成し設置 ・首都圏等の旅行代理店を対象に地域の魅力を売り込むプロモーション会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の全ての文化施設の展覧会や催しを網羅したイベントガイドを季節ごとに作成し配布 ・近隣の宿泊施設と連携し宿泊客への売り込みを強化 ・開催中の展覧会やイベントの情報を掲載した看板を作成し設置 ・首都圏等の旅行代理店を対象に地域の魅力を売り込むプロモーション会

			議を年に2回開催 ・旅行代理店を対象に観光キャラバンを実施しツアー商品化に向けた取り組みを強化	議を年に2回開催 ・旅行代理店を対象に観光キャラバンを実施しツアー商品化に向けた取り組みを強化	議を年に2回開催 ・旅行代理店を対象に観光キャラバンを実施しツアー商品化に向けた取り組みを強化	議を年に2回開催 ・旅行代理店を対象に観光キャラバンを実施しツアー商品化に向けた取り組みを強化	議を年に2回開催 ・旅行代理店を対象に観光キャラバンを実施しツアー商品化に向けた取り組みを強化
事業5-①： 県立美術館展示室照明の改修事業			・LED化の設計検討	・展示室の工事を順次実施	・宮内庁三の丸尚蔵館所蔵作品展の開催	—	—
事業5-②： 県立歴史博物館のエレベーター改修事業			—	—	・改修工事、運用開始	—	—
事業5-③： 兼六園周辺文化の森紹介ジオラマ改修事業			—	—	・改修工事	—	—
事業5-④： 建築文化レガシー継承事業			・対象施設の改修について基本指針の整理 ・基本計画策定	・実施設計（鈴木大拙館）	・工事実施（鈴木大拙館、2か年1年目）	・工事実施（鈴木大拙館、2か年2年目） ・実施計画（金沢21世紀美術館）	・実施設計（金沢21世紀美術館）

目標②：来訪者数（訪日外国人）（課題1、2、3関連、取組強化事項1、3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

中核とする文化観光拠点施設における外国人来訪者数を指標とする。R3年は、R2年に新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ来訪者数をR1年の水準に回復させ、その数値を基準としてR7年に30%増加することを目指し、R3年～R7年の目標値を定める。

中核とする文化観光拠点施設のうち、金沢21世紀美術館の来訪者数は38,689人（R1）、県立美術館・県立歴史博物館・金沢能楽美術館は合計8,769人（R1）であり、金沢21世紀美術館を除く中核とする文化観光拠点施設においては、R10年に20,000人（約2倍）、5館合計では70,000人を目標値とする。

年度	実績		目標				
	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
目標値 (単位：人)	47,458	集計中	47,400	50,700	54,200	57,900	61,600
事業1-⑧： 文化資源を活用した夜の賑わい創出事業			<ul style="list-style-type: none"> 兼六園や金沢城公園を含め各施設連携したライトアップを行い夜の回遊を促進 本多の森公園においてデジタル掛け軸など夜のイベントを開催 夜のイベントにあわせ周辺施設を夜間開館 	<ul style="list-style-type: none"> 兼六園や金沢城公園を含め各施設連携したライトアップを行い夜の回遊を促進 エリア内でデジタル掛け軸など夜のイベントを開催 夜間開館にあわせて学芸員による展示解説ツアーなどを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 兼六園や金沢城公園を含め各施設連携したライトアップを行い夜の回遊を促進 エリア内でデジタル掛け軸など夜のイベントを開催 夜間開館にあわせて学芸員による展示解説ツアーなどを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 兼六園や金沢城公園を含め各施設連携したライトアップを行い夜の回遊を促進 エリア内でデジタル掛け軸など夜のイベントを開催 夜間開館にあわせて学芸員による展示解説ツアーなどを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 兼六園や金沢城公園を含め各施設連携したライトアップを行い夜の回遊を促進 エリア内でデジタル掛け軸など夜のイベントを開催 夜間開館にあわせて学芸員による展示解説ツアーなどを開催
事業1-⑩： インフォメーションサービス事業			<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ内容の検討と調整 コンテンツを制作し発信を開始 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの発信 コンテンツ追加の検討 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの発信 コンテンツ追加の検討 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの発信 コンテンツ追加の検討 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツの発信 コンテンツ追加の検討

事業4-①： 訪日外国人に向けた着 地型情報整備事業			・設計についてJN TOと協議	・既存の日本語HP を英語版に改修	・英語版HPの運用 開始	・英語以外の多言語 化も検討	・英語以外の多言語 化も検討
----------------------------------	--	--	--------------------	----------------------	-----------------	-------------------	-------------------

目標③：来訪者の満足度（課題2、3、4関連、取組強化事項1、2、3、4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

中核とする文化観光拠点施設において、R3年より来館者アンケートの質問項目を統一して実施し、満足度の項目において、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を指標とする。

年度	実績		目標				
	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
目標値 (単位：%)	—	—	85	90	95	95以上	95以上
事業1-②： VR技術を活用した文 化資源の理解促進事業			・VRシアターの基 本設計	・コンテンツの造成 とシアターの整備	・秋の国民文化祭を 目途に公開	・コンテンツの常設 公開 ・新たなコンテンツ の検討	・コンテンツの常設 公開 ・新たなコンテンツ の造成
事業1-③： 高精細画像を活用した 観覧の充実・整備事業			・2D作品30点の 作成、追加公開 ・3D作品1点の作 成、追加公開	・2D作品30点の 作成、追加公開 ・3D作品1点の作 成、追加公開	・2D作品30点の 作成、公開 ・3D作品1点の作 成、追加公開	・2D作品30点の 作成、追加公開 ・3D作品1点の作 成、追加公開	・2D作品30点の 作成、追加公開 ・3D作品1点の作 成、追加公開
事業1-④： スマートフォン用AR アプリを活用した文化 資源の理解及び回遊促 進事業			・統合版運用開始 ・未導入施設での計 画的導入 ・既実施施設のコン テンツ増加調整	・未導入施設での計 画的導入 ・既実施施設のコン テンツ増加調整	・未導入施設での計 画的導入 ・既実施施設のコン テンツ増加調整	・未導入施設での計 画的導入 ・既実施施設のコン テンツ増加調整	・未導入施設での計 画的導入 ・既実施施設のコン テンツ増加調整

事業1-⑤： 文化資源の理解促進・展 示機能強化事業			・所蔵品のデジタル アーカイブ化着手	・所蔵品の詳細な画 像と解説をWEB で公開	・所蔵品のWEB公 開 ・拠点施設等でスマ ートフォンを活用 した展示ガイドの 導入	・所蔵品のWEB公 開	・所蔵品のWEB公 開
事業2-①： 受付サービスのデジタ ル化促進事業			・キャッシュレス決 済メニューの追加 ・金沢市文化施設共 通観覧券のデジタ ルチケット化	・キャッシュレス決 済メニューの追加 検討	・キャッシュレス決 済メニューの追加 検討	・キャッシュレス決 済メニューの追加 検討	・キャッシュレス決 済メニューの追加 検討
事業3-①： 近隣商店街等と連携し た地域活性化推進事業			・金沢 21 世紀美術 館、金沢能楽美術館 において近隣商店 街等店舗と連携策 を協議 ・試行的に実施	・本格実施 ・連携先及び連携方 策について検討、協 議	・本格実施 ・連携先及び連携方 策について検討、協 議	・本格実施 ・連携先及び連携方 策について検討、協 議	・本格実施 ・連携先及び連携方 策について検討、協 議

目標④：来訪者の満足度（訪日外国人）（課題3、4関連、取組強化事項3、4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

中核とする文化観光拠点施設においてR3年より外国人向けの来館者アンケートを実施し、満足度の項目において、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を指標とする。

年度	実績		目標				
	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
目標値 (単位：%)	—	—	85	90	95	95以上	95以上
事業1-⑨： 展示情報等の多言語化 推進事業			・拠点施設のメイン コンテンツから順 次多言語化	・拠点施設のメイン コンテンツから順 次多言語化	・県立美術館に導入 するVRシアター において多言語化 ・拠点施設のメイン コンテンツから順 次多言語化	・拠点施設のメイン コンテンツから順 次多言語化	・拠点施設のメイン コンテンツから順 次多言語化
事業3-②： 高付加価値体験を提供 する滞在型コンテンツ 造成事業			・文化観光推進事業 者と連携しプログ ラムの検討、造成 ・トライアル実施	・プログラムの本格 実施	・プログラムの本格 実施 ・実績を踏まえ事業 の見直しと新たな コンテンツの検討	・プログラムの本格 実施 ・実績を踏まえ事業 の見直しと新たな コンテンツの検討	・プログラムの本格 実施 ・実績を踏まえ事業 の見直しと新たな コンテンツの検討

6. 目標の達成状況の評価

金沢市が毎年実施する観光調査の結果及び各施設で実施する来館者アンケートの結果に基づき、達成状況を評価し、石川県、金沢市、文化観光推進事業者が連携し、年1回、課題の整理と検証を行う。

課題に対しては、前述の3者及び拠点施設、連携施設が多角的に解決策を検討し、PDCAサイクルの確保に努める。

7. 中核とする文化観光拠点施設

文化観光拠点施設名 石川県立美術館

主要な文化資源

美術工芸の盛んな地域である石川県において、展覧会を通じた美術鑑賞の場の提供だけでなく、石川県の伝統的な芸術的個性を活かした地方色豊かな美術館として、美術文化活動の中核的な役割を果たすことを目的に開設し、石川県の歴史、美術工芸の伝統をふまえた、地域文化に関わりのある作品を中心に収集・公開している。収蔵品としては、古美術から近現代美術まで、絵画・彫刻・工芸の幅広い分野に及び、国宝「色絵雉香炉」をはじめ、6件の国指定重要文化財を含む4,000件を超える作品を収蔵している。

・ 展示活動

コレクション展示では、古九谷をはじめとした古美術から近現代美術、工芸の全分野の美術作品を展示しているほか、国宝「色絵雉香炉」と重要文化財「色絵雌雉香炉」を第1展示室において常時公開している。そのほか、意欲的な企画展の開催、公益財団法人前田育徳会が所蔵する加賀藩前田家に伝わる優れた文化財の展示を行っている。

・ 広坂別館・石川県文化財保存修復工房

国登録有形文化財「旧陸軍第九師団司令部長官舎」を活用した広坂別館は、ギャラリー等、県民の文化活動の場として利用されており、貴重な近代建築を自由に見学することができる。広坂別館に併設された石川県文化財保存修復工房では、文化財の修復についてわかりやすく解説するほか、文化財の修復の様子を常時公開している。



右：国宝「色絵雉香炉」野々村仁清作
左：重要文化財「色絵雌雉香炉」野々村仁清作



広坂別館（旧陸軍第九師団司令部長官舎） 外観

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・ 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

ほぼ毎月、展示作品の入れ替えを行っており、地域にちなんだテーマを設定し、石川ゆかりの作家を取り上げて、石川の美術工芸を広く紹介している。国宝「色絵雉香炉」や古九谷は常時公開し、来館者がいつでも観ることができる環境を提供しているほか、開催中の展覧会に関連した土曜講座や講演会、イベント等を開催している。また、美術館ホームページ上でコレクション作品の一部を公開し紹介している。

- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
R2年度は、タブレットを活用したオンラインでの展示鑑賞会を開催し、コロナ禍においても学芸員の解説を楽しめる新たなコンテンツ作りに取り組んでいる。
- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）
館内の作品解説表示は日本語、英語を併記しているほか、日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語による音声ガイドを導入し、展示概要と一部作品の解説を行っている。ホームページは日本語・英語・中国語（繁・簡）・韓国語の5か国語、施設パンフレットも5か国語に対応している。

本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）
 - ①地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会の開催
国立博物館・美術館等から地域ゆかりの名品を借り受けた展覧会や、「工芸」などの共通テーマを設けた展覧会を周辺の国立工芸館や県立歴史博物館と連携して開催することで相乗効果を発揮し、より集客力のある展覧会を開催する。
 - ②文化資源を活用した地域の魅力発信
文化資源を活用した地域の魅力発信、賑わい創出、周遊促進を目的とした各種イベントの開催を通じ、施設の魅力を伝えるほか、情報発信を強化し、国内外の来客を促す。
 - ・工芸文化の魅力発信
国立工芸館、県立歴史博物館と連携し、学芸員の解説付きで特別展を巡るツアーを開催し、展示の理解を深めてもらう仕組みを作るほか、単に見るだけでなく、実際に体験する伝統工芸制作体験ワークショップや、本県の人的資産である人間国宝等によるリレー講演会を開催する。
 - ・建築文化の魅力発信
県立美術館広坂別館の建物解説・紹介パンフレットの作成や、周辺施設と連携したレトロ建築巡りツアー等を開催し、兼六園周辺文化の森でのアーキテクチャーツーリズムを促進する。
 - ・夜の賑わい創出
観光客に長く金沢での観光を楽しんでもらうため、地域の夜の魅力を創出する。県立美術館を含め、市内の観光地をライトアップすることで、夜の回遊を促すとともに、夜間開館を行い、特別な夜のミュージアムを体験してもらう。
 - ③展示室照明の改修
国宝をはじめとした文化資源をより良い環境で観覧してもらうため、展示室及び展示ケースの照明のLED化を進める。
 - ④所蔵品のデジタルアーカイブ化
文化資源のWEB公開を積極的に推進する。
- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
 - ①VRシアターの整備
国宝や国指定重要文化財を中心に所蔵品をVRで紹介するコンテンツを制作・公開する。普段手に取ることができない作品の細部を鑑賞できるほか、作品の制作過程や、歴史・ストーリーを映像でわかりやすく再現し、より深く文化資源の理解を深めてもらう取り組みを強化する。

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

①多言語解説事業

外国人観光客が展示物の背景やストーリーの理解を深められるように、展示室内のキャプションや作品解説等の多言語化を拡充する。多言語解説の作成にあたっては「魅力的な多言語解説作成指針」（観光庁）に沿って実施する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

金沢市観光協会が企画する「金沢の食と文化」をテーマとした体験企画の見学地として、県内外の参加者に石川・金沢に伝わる美術・伝統工芸を紹介するガイドツアーを行う等、石川県観光連盟、金沢市観光協会等の文化観光推進事業者と連携した取り組みを強化している。

また、石川県観光戦略推進部観光企画課および金沢市経済局観光政策課を含む県市関係課、地域内の文化施設、文化観光推進事業者で組織する「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」の一員として、地域の文化観光の推進に取り組む。

- ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

美術館の運営に資するため実施する利用者アンケートにより、満足度等のデータを把握している。

- ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

文化観光の推進については、「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」において、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行う。

本計画における取組

- ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

外国人をはじめとした観光客の満足度向上と地域における経済波及効果を拡大するため、文化観光推進事業者と連携し、高付加価値体験を提供する滞在型コンテンツの造成に努める。

- ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

利用者アンケートによる満足度等のデータの把握のほか、県市観光部局による観光動態調査等の調査結果の提供を受け、施設を取り巻く観光客の動向等について状況を把握し、文化観光の取組に活用する。

- ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会において、適切なKPIの設定や事業の見直しを行う。各プランにて指標を定めてモニタリングするとともに、特にプラン見直し時点において振り返りの場を設けて、文化観光推進事業者等から改善に向けた指摘をもらうことで、PDCAサイクルを効果的に進める。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

①交通機関が発行するバス周遊1日フリー乗車券や定期観光バス乗車証で割引が受けられ、来訪者を受入する取組を実施。

- ②まちのり（公共シェアサイクル）ポート増設など2次交通機関の充実。
- ③美術館内のカフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」と連携し、企画展とコラボした特別メニューの提供や半券提示による割引等を実施。
- ④周辺商業施設にポスター掲示等の広報への協力を依頼。

本計画における取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
 - 交通事業者や周辺商業施設、また近隣の宿泊施設など、新たな連携先の開拓と相乗効果を図ることができる取り組みを検討する。

文化観光拠点施設名 | 石川県立歴史博物館

主要な文化資源

「誰もが楽しく学べる博物館」（訪れるたびに新鮮な驚きと発見・感動があり、楽しく学べるとともに、探求心を育む博物館）、「ゆったりとくつろげ、交流を育む博物館」（フリーゾーンを設け、誰もが気軽に立ち寄り、本多の森公園の緑や国指定重要文化財の赤レンガ建築がもつ落ち着いた雰囲気の中でゆったりとくつろぎ、さまざまな交流が生まれる博物館）、「人にやさしい博物館」（様々な人々が快適に利用できる博物館、石川の歴史や文化に関する資料を大切に保管し、未来へと伝える博物館）をコンセプトに平成27年にリニューアルオープン。

・展示活動

「石川の歴史と文化」をテーマにした総合展示を基本とし、豊富な実物資料に加え、加賀藩の大名行列を映像と人形で紹介するコーナーや、石川の祭りを大迫力で体感できる映像シアターなどを展示する常設展示のほか、企画展を開催している。また、「歴史体験ひろば」において、甲冑などの衣装の着用や実物・模型資料に直接触れたり、使ってみる体験コーナーも充実している。

・いしかわウェルカムラウンジ

兼六園周辺文化の森の模型や空撮写真で周辺文化施設の情報や見どころを紹介しているほか、液晶パネルを設置し、石川県のクイズ・観光情報・文化財を紹介している。また、ロビーのミュージアムシアターでは、城下町金沢の魅力を伝える映像を上映している。

・赤レンガ造りの近代建築

明治末から大正初めにかけて建造された国指定重要文化財「旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫」を保存しながら、博物館として再利用しており、平成3年には日本建築学会賞を受賞。館内では、建築当時の写真なども紹介しており、建物の歴史と国指定重要文化財としての価値、魅力を堪能することができる。



県立歴史博物館 外観



大名行列に関する展示

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）
常設展やコレクション展に加え、毎年学芸員が趣向を凝らした大掛かりな展覧会を年3回開催するとともに、展覧会をより深く知ることができるセミナーや館長講演会など各種講座を開催している。また、博物館ホームページ上で、所蔵品の一部の画像を公開し紹介している。
- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
常設展を解説する音声ガイドを導入しているほか、常設展には随所に映像を多用したわかりやすい解説コーナーを設置している。
- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）
館内の作品解説表示は一部英語の表示があるほか、日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語による音声ガイドを導入し、展示概要と一部作品の解説を行っている。ホームページは日本語・英語・中国語（繁・簡）・韓国語の5か国語、施設パンフレットも5か国語に対応している。

本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）
 - ①地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会の開催
国立博物館・美術館等から地域ゆかりの名品を借り受けた展覧会や、「工芸」などの共通テーマを設けた展覧会を周辺の国立工芸館や県立美術館と連携して開催することで相乗効果を発揮し、より集客力のある展覧会を開催する。
 - ②文化資源を活用した地域の魅力発信
文化資源を活用した地域の魅力発信、賑わい創出、周遊促進を目的とした各種イベントの開催を通じ、施設の魅力を伝えるほか、情報発信を強化し、国内外の来客を促す。
 - ・工芸文化の魅力発信
国立工芸館、県立美術館と連携し、学芸員の解説付きで特別展を巡るツアーを開催し、展示の理解を深めてもらう仕組みを作るほか、単に見るだけでなく、実際に体験する伝統工芸制作体験ワークショップや、本県の人的資産である人間国宝等によるリレー講演会を開催する。

・ 建築文化の魅力発信

国の重要文化財である建物の解説・紹介パンフレットの作成や、周辺施設と連携したレトロ建築巡りツアー等を開催し、兼六園周辺文化の森でのアーキテクチャーツーリズムを促進する。

・ 夜の賑わい創出

観光客に長く金沢での観光を楽しんでもらうため、地域の夜の魅力を創出する。県立歴史博物館を含め、市内の観光地をライトアップすることで、夜の回遊を促すとともに、夜間開館を行い、特別な夜のミュージアムを体験してもらう。

③エレベーターの改修

より多くの方に来館いただくため、来館者用のバリアフリーエレベーターを整備するとともに、展示物の搬入経路を改善するため展示物搬入用エレベーターを改修し、国立博物館等から指定文化財の借用を促進する。

④兼六園周辺文化の森紹介ジオラマ改修

地域のジオラマを最新の情報に改修し、金沢市中心部の環境を立体的に紹介することで、市内、施設間の回遊を促進する。

⑤所蔵品のデジタルアーカイブ化

文化資源のWEB 公開を積極的に推進する。

・ 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

①展示解説システムの整備

来館者の満足度を高めるため、スマートフォンのアプリで常設展の解説・音声ガイドを利用できる仕組みを導入する。

・ 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

①多言語解説事業

外国人観光客が展示物の背景やストーリーの理解を深められるように、展示室内のキャプションや作品解説等の多言語化や音声案内の多言語対応の拡充、スマートフォンを利用したガイドシステムの多言語対応を行う。多言語解説の作成にあたっては「魅力的な多言語解説作成指針」（観光庁）に沿って実施する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・ 文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

石川県観光戦略推進部観光企画課および金沢市経済局観光政策課を含む県市関係課、地域内の文化施設、文化観光推進事業者で組織する「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」の一員として、地域の文化観光の推進に取り組む。

・ 文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

博物館の運営に資するため実施する利用者アンケートにより、満足度等のデータを把握している。

・ 文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

文化観光の推進については、「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」において、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行う。

本計画における取組

- ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築
外国人をはじめとした観光客の満足度向上と地域における経済波及効果を拡大するため、文化観光推進事業者と連携し、高付加価値体験を提供する滞在型コンテンツの造成に努める。
- ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析
利用者アンケートによる満足度等のデータの把握のほか、県市観光部局による観光動態調査等の調査結果の提供を受け、施設を取り巻く観光客の動向等について状況を把握し、文化観光の取組に活用する。
- ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会において、適切なKPIの設定や事業の見直しを行う。各プランにて指標を定めてモニタリングするとともに、特にプラン見直し時点において振り返りの場を設けて、文化観光推進事業者等から改善に向けた指摘をもらうことで、PDCAサイクルを効果的に進める。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
 - ①交通機関が発行するバス周遊1日フリー乗車券や定期観光バス乗車証で割引が受けられ、来訪者を受入する取組みを実施。
 - ②まちのり（公共シェアサイクル）ポート増設など2次交通機関の充実。
 - ③周辺商業施設にポスター掲示等の広報への協力を依頼。

本計画における取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
交通事業者や周辺商業施設、また近隣の宿泊施設など、新たな連携先の開拓と相乗効果を図ることができる取組みを検討する。

文化観光拠点施設名	金沢21世紀美術館
-----------	-----------

主要な文化資源

「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に開設された金沢21世紀美術館は、新たなまちづくりへの対応が求められている中であって、ミュージアムとまちとの共生により、新しい金沢の魅力と活力を創出してきた。2004年の開館以来、全面ガラス張りで開放感に満ちあふれた建物の魅力もさることながら、現代美術の面白さや不可思議さを、館内外の多彩な作品によって紹介し、来場者を楽しませている。

・現代美術のコレクション

1980年以降に制作された新しい価値観を示す作品、1900年以降に制作された歴史的参照点となる作品、金沢ゆかりの作家の作品という収集方針により収集した約3,000点のコレクションを「コレクション展」として展示している。



クリス・バーデン《メトロポリス》2004年
金沢21世紀美術館蔵
撮影：木奥恵三



小谷元彦《ドレイプ》1998年
金沢21世紀美術館蔵
撮影：弘本英樹
courtesy: YAMAMOTO GENDAI

・多彩な企画展覧会

世界の「現在（いま）」とともに生きる美術館として、時間や空間を超え、従来のジャンルを横断する様々な表現で展開される芸術活動を体感できる企画展覧会を開催している。

・恒久作品展示

美術館の建物内、敷地内に恒久作品を展示している。「スイミング・プール」を始めとする、いくつかの作品はフォトスポットとなって、多くの来場を呼び込む原動力となっている。



レアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》2004年

・意匠性の高い近代建築

プリツカー賞を受賞したSANAA（妹島和世氏、西沢立衛氏）設計であるガラス張りの円形の近代建築である美術館建築自体も鑑賞の対象として、多くの人を惹きつけている。



金沢 21 世紀美術館 外観

・ まちに開かれた美術館

アトライブラリー、ミュージアムショップ、カフェレストラン「フュージョン 21」など、来館者の多様なニーズに応える出会いと交流を創出し、誰もが気軽に訪れる空間を演出し、多くの市民を始めとする人の流れを作っている。

また、週末には、独創性に富んだ活動を行う人たちが金沢 21 世紀美術館の広場や交流ゾーンへ集い、ヒト、コト、モノが複合的 (complex) かつ横断的に交流するよう、「まちの広場」を市民とともにつくるプログラムを実施するなど、様々なアートの楽しみ方を発信している。

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・ 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 1 号)

年間 2 回の「コレクション展」と年間 2 回の「企画展覧会」を通じ、時間や空間を超え、従来のジャンルを横断する世界の同時代の様々な美術表現や芸術活動を直に体感できるようにしている。

また、美術館ホームページ上でコレクション作品の一部をデジタルアーカイブとして、一部展覧会の音声解説データを公開している。

・ 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介 (施行規則第 1 条第 1 項第 2 号)

展示室内には、QRコードを利用して作品の紹介や音声案内 (一部) を行い、一部展覧会においては、オリジナルオーディオガイド (ネット決済・有料) による音声案内を行っている。



QRコード利用した作品の紹介



オリジナルオーディオガイド

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

館内の作品解説表示は日本語、英語を併記しているほか、ホームページは英語、中国語（繁・簡）など6国語に対応するとともに、施設パンフレットも7か国語で多言語化対応している。また、オリジナルオーディオガイドは、日本語、英語、中国語の音声に対応をしている。

本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

①国内外のナショナルミュージアム級の美術館等から展示品を借用した展覧会の充実

企画展示においては、国内外のナショナルミュージアム級の美術館等から展示品を借り上げるなど、より魅力的な展示活動を実施する。また、令和6年に迎える20周年を記念し、所蔵する工芸品などの展示と併せ、これまでの歩みを伝える展示を計画している。

②文化資源を活用した地域の魅力発信

文化資源を活用した地域の魅力発信、賑わい創出、周遊促進を目的とした各種イベントの開催を通じ、施設の魅力を伝えるほか、情報発信を強化し、国内外の来客を促す。

・夜の賑わい創出

観光客に長く金沢での観光を楽しんでもらうため、地域の夜の魅力を創出する。金沢21世紀美術館を含め、市内の観光地をライトアップすることで、夜の回遊を促すとともに、夜間開館やコンサート等の夜間イベントを開催し、特別な夜のミュージアムを体験してもらう。



みんなでPIKAPIKA スペシャルワークショップ



金沢21世紀美術館 外観（夜間）

・特別展を巡る解説ツアー

国立工芸館・県立美術館・県立歴史博物館等の特別展を、学芸員の解説付きで巡るツアーを開催する。

・建築文化の魅力発信と建築文化レガシーの継承

本市における現代建築の代表格で連携施設の鈴木大拙館との行き来を想定した取り組みを実施することで、兼六園周辺文化の森でのアーキテクチャーツーリズムを促進し、計画区域内の歴史的な重層を建築の観点から発信し、建築文化レガシーの継承を図る。

③情報発信の強化

・インフォメーションサービス事業

美術館情報の発信を強化するため、デジタルコンテンツとして学芸員やアーティストによるツアーのオンライン動画やバーチャル映像などを作成して、美術館広報の強化を図る。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

①AR技術（拡張現実）による展示機能強化

AR技術によって展示内容に幅を持たせる展示機能強化を実施。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

①多言語化事業

外国人観光客が展示物の背景やストーリーの理解を深められるように、QRコードを利用した展示室内のキャプションや作品解説等の多言語化を拡充する。なお、多言語解説の作成にあたっては「魅力的な多言語解説作成指針」（観光庁）に沿って実施する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

金沢市観光協会などと連携体制を構築しているほか、石川県観光戦略推進部観光企画課および金沢市経済局観光政策課を含む県市関係課、地域内の文化施設、文化観光推進事業者で組織する「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」の一員として、地域の文化観光の推進に取り組む。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

美術館の運営に資するため実施する利用者アンケートにより、満足度等のデータを把握している。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」において、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行う。

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

外国人をはじめとした観光客の満足度向上と地域における経済波及効果を拡大するため、文化観光推進事業者と連携し、本市特有の素材である「美術・工芸」「和文化」などの魅力ある素材を用い、海外の富裕層や国内のカルチャーツアーに関心がある層など選定したターゲットとマーケットニーズにフォーカスした素材に新たな提案を盛り込んだコンテンツのほか、with コロナ期の新しい生活様式の基盤につながる滞在型コンテンツとして国内外の富裕層やコレクター等に向けて“モーニングツアー”や“ナイトミュージアム”コンテンツを造成、実施する。なお、本事業の実施にあたり、中核施設の金沢能楽美術館や連携施設の鈴木大拙館とも連携した取り組みを検討していく。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

利用者アンケートによる満足度等のデータの把握のほか、県市観光部局による観光動態調査等の調査結果の提供を受け、施設を取り巻く観光客の動向等について状況を把握し、文化観光の取組に活用する。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
 兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会において、適切なKPIの設定や事業の見直しを行う。各プランにて指標を定めてモニタリングするとともに、特にプラン見直し時点において振り返りの場を設けて、文化観光推進事業者等から改善に向けた指摘をもらうことで、PDCAサイクルを効果的に進める。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ①交通機関が発行するバス周遊1日フリー乗車券や定期観光バス乗車証で割引が受けられ、来訪者を受入する取組みを実施。
- ②まちなり（公共シェアサイクル）ポート増設など2次交通機関の充実。
- ③企画展チケットで割引が受けられるなど相互に特典を付与するなど、まち全体で来訪者を受入する連携を実施。



まち全体で来訪者を受入する連携（アート de まちあるき）

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ①まちなり（公共シェアサイクル）ポートのさらなる増設など2次交通機関の充実。
- ②相互特典付与者を増やすとともに、登録店舗の拡大や連携事業のPRなど、まち全体で来訪者を受入する連携を強化する。
- ③金沢21世紀美術館と街中にあるクラフト店舗等と回遊性を持たせる仕組みを検討、実施する。

文化観光拠点施設名	金沢能楽美術館
-----------	---------

主要な文化資源

金沢は、藩政期より加賀藩前田家の歴代藩主が能を愛好し、武家の式楽として手厚く保護・育成するとともに、広く庶民にも謡や仕舞を推奨したため、「空から謡が降ってくる」といわれるほど能の盛んな街となった。初代の前田利家は金春流の能を嗜んだが、5代藩主綱紀の頃、将軍徳川綱吉が宝生流を晶眉にしたため加賀藩も宝生流を採用し、以来宝生宗家との結びつきを深めた。

明治維新により武家階級の庇護を失った能楽は、金沢でも一旦は衰えたが、「加賀宝生中興の祖」と称される佐野吉之助が素晴らしい伝統を絶やしてはならぬと自ら能楽師となる一方、大名家などから売りに出される能面や能装束を買い集め、舞台の新築、金沢能楽会の設立など、近代の加賀宝生の礎を築いた。

金沢能楽美術館は、この佐野家に伝わった能面や能装束の一部をコレクションの母体とし、広く能楽関係資料を収集・保存・展示する施設として平成18年10月に開館した世界で唯一の能楽専門「美術館」である。加賀藩の進化するレガシーそのものである「伝統と創造」を象徴する施設として、金沢21世紀美術館に隣接して設置され、加賀宝生の文化を未来に繋げている。

- ・金沢市無形文化財の加賀宝生に伝わる貴重な能面や能装束を収蔵



金沢能楽美術館 2F 展示室

- ・ユネスコ無形文化財に指定されている能楽の魅力を伝える体験展示



金沢能楽美術館 1F 導入展示

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

加賀宝生や能楽の魅力伝えるため、展示室では能楽を通じて金沢と全国、世界を繋ぐ展示、新たな創造から能楽世界を紹介して新たなファン層の開拓や外国人にも興味を持って来館してもらうなどのコンセプトを持った年間数回の企画展示を実施している。また、能舞台の実際の大きさを体験できるコーナーや、能面・能装束の着装体験などで、疑似体験できるようにしている。



金沢能楽美術館 体験（能面・能装束の着装、能楽器）

①加賀における能楽文化の歴史を再認識する展示（これまで実施したもの）

- ・初代利家が愛好した金春座の名品展（東京国立博物館）
- ・加賀前田家旧蔵作品の里帰り展（京都国立博物館・彦根城博など）
- ・金沢ゆかりの人間国宝：能楽篇（野村万蔵・藤田大五郎・柿本豊次）
- ・海外展の凱旋展（パリ日本文化会館「金沢—もう一つの武家文化—」展） など

②新たな切り口・新たな創造から能楽世界を紹介する展示（これまで実施したもの）

- ・ 武家の能と身体展
- ・ 刀剣と能展
- ・ ピーター・マクドナルドスクロール・ストーリー
（金沢 21 世紀美術館共催：英国人若手画家が描く能絵巻）
- ・ 河鍋暁斎の能・狂言画展
（河鍋暁斎記念館・三井記念美術館共催：奇才の画家が描いた能楽世界）
- ・ 生きている老松展（現代抽象画家山本浩二氏が描く老松） など

③能楽との出会い・交流の場

能舞台を模した 1 階では、昭和 7 年に建設された金澤能楽堂の模型とともに、舞台の構造や実際の大きさが体感できる。フロアの鏡板はスクリーンにもなり、映像と囃子や舞の共演など、現代のクリエイターと能楽師との実験的なコラボレーションも試みている。

また、国内外の老若男女に人気の体験コーナーでは、金沢市の観光ボランティア組織「まいどさん」の協力のもと、普段は触れることのできない本物の能面や能装束（唐織）を着装できる。

・ 情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 2 号）

AR 技術による展示では、所蔵品 3D データ（能面）を展示と連動させ 360 度回転する能面映像、動きや角度によって表情を変える様子のほか、通常の展示では見られない裏面の姿まで見ることができる。また能楽器の組み立ての様子など、準備の行程など、能楽器の動画や音色とともに紹介し、興味関心を持って能楽の魅力を感じてもらえる展示を行っている。

・ 外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 3 号）

ホームページは英語、フランス語の 2 ヶ国語に対応するとともに、施設パンフレットを英語対応している。

本計画における取組

・ 文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第 1 条第 1 項第 1 号）

①国立博物館等から展示品を借用した展覧会の充実

国立博物館等から名品を借用展示（R5～7 で 1、2 回）するほか、海外で保管されている関係資料の展示など、より魅力的な展示活動を実施する。

②文化資源を活用した賑わい創出

文化資源を活用した地域の魅力発信、賑わい創出、周遊促進を目的とした各種イベントの開催を通じ、施設の魅力を伝えるほか、情報発信を強化し、国内外の来客を促す。

・ 夜の賑わい創出

観光客に長く金沢での観光を楽しんでもらうため、地域の夜の魅力を創出する。金沢能楽美術館を含め、市内の観光地をライトアップすることで、夜の回遊を促すとともに、夜間開館やコンサート等の夜間イベントを開催し、特別な夜のミュージアムを体験してもらう。

・ 建築文化の魅力発信と建築文化レガシーの継承

金沢 21 世紀美術館と敷地で隣接することから、鈴木大拙館と金沢 21 世紀美術館が連携して実施するアーキテクチャーツーリズムに協調した取り組みを実施することで、計画区域内の歴史的な重層を建築の観点から発信し、建築文化レガシーの継承を図る。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

①AR技術（拡張現実）による展示機能強化

AR技術による展示として、既に実施している展示と連動させた所蔵品3Dデータ（能面）の追加など、AR技術によって展示内容に幅を持たせる展示機能強化を充実する。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

①多言語化事業

外国人観光客が展示物の背景やストーリーの理解を深められるように、AR技術を活用した館内の紹介や音声による作品解説等の多言語化を拡充する。なお、多言語解説の作成にあたっては「魅力的な多言語解説作成指針」（観光庁）に沿って実施する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

金沢市観光協会などと連携体制を構築しているほか、石川県観光戦略推進部観光企画課および金沢市経済局観光政策課を含む県市関係課、地域内の文化施設、文化観光推進事業者で組織する「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」の一員として、地域の文化観光の推進に取り組む。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

美術館の運営に資するため実施する利用者アンケートにより、満足度等のデータを把握している。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」において、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行う。

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

外国人をはじめとした観光客の満足度向上と地域における経済波及効果を拡大するため、文化観光推進事業者と連携し、本市特有の素材である「美術・工芸」「和文化」などの魅力ある素材を用い、海外の富裕層や国内のカルチャーツアーに関心がある層など選定したターゲットとマーケットニーズにフォーカスした素材に新たな提案を盛り込んだコンテンツのほか、with コロナ期の新しい生活様式の基盤につながる滞在型コンテンツとして国内外の富裕層やコレクター等に向けて“モーニングツアー”や“ナイトミュージアム”コンテンツを造成、実施する。なお、本事業の実施にあたり、中核施設の金沢能楽美術館や連携施設の鈴木大拙館とも連携した取り組みを検討していく。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

利用者アンケートによる満足度等のデータの把握のほか、県市観光部局による観光動態調査等の調査結果の提供を受け、施設を取り巻く観光客の動向等について状況を把握し、文化観光の取組に活用する。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
 兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会において、適切なKPIの設定や事業の見直しを行う。各プランにて指標を定めてモニタリングするとともに、特にプラン見直し時点において振り返りの場を設けて、文化観光推進事業者等から改善に向けた指摘をもらうことで、PDCAサイクルを効果的に進める。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ①交通機関が発行するバス周遊1日フリー乗車券や定期観光バス乗車証で割引が受けられ、来訪者を受入する取組みを実施。
- ②隣接するクラフト広坂との連携や、通りに面したギャラリースペースでは、金沢工芸研究会が能楽をテーマとした作品の制作および展示販売を行うなどの連携を実施している。



金沢能楽美術館 1F エントランス
 「工芸の風姿花伝」工芸作品の展示販売

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ①隣接するクラフト広坂との連携など、近隣商店街との連携を強化する。
- ②相互特典付与者を増やすとともに、登録店舗の拡大や連携事業のPRなど、まち全体で来訪者を受入する連携を強化する。

文化観光拠点施設名	国立工芸館
-----------	-------

主要な文化資源

国立美術館として最初に開館した東京国立近代美術館の分館として、近・現代の工芸・デザイン作品を専門とする美術館として、昭和52(1977)年に東京都千代田区北の丸公園で開館し、政府関係機関の地方移転施策により、令和2年10月25日に石川県金沢市の本多の森公園へ移転開館した。

・コレクション

明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品をコレクションしており、国指定重要文化財「十二の鷹」(鈴木長吉作)をはじめとした、陶磁、ガラス、漆工、木竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィックデザインなど約4,000点を収蔵。

・展示活動

近代工芸の歴史、国内外作家、近現代工芸の作品など特定のテーマに沿った多様な展覧会を開催するほか、工芸にはじめてふれる方のために、工芸の見どころをわかりやすく紹介しており、最新デジタル技術を用いたコーナーも設置している。また、松田権六（金沢出身の重要無形文化財保持者（人間国宝）、漆芸家）の工房を展示室内に移築・復元し、作家ゆかりの制作道具や関連資料、記録映像を展示している。

・旧陸軍施設を移築・活用

国立工芸館の建物は、明治期に建てられた国登録有形文化財「旧陸軍第九師団司令部庁舎」及び「旧陸軍金沢借行社」を移築するとともに、過去に撤去された部分や外観の色などを復元して活用している。展示室部分はRC造で復元して新築し、外観は建築当時の色を再現しており、クラシックな洋風建築の外観とモダンな展示スペースを兼ね備えている。



国立工芸館 外観

(左：旧陸軍第九師団司令部庁舎・右：旧陸軍金沢借行社)

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

開館記念展の開催後は、季節ごとに展示替えを行いテーマに沿った多様な展覧会を開催予定。展覧会に加えて、最新デジタル技術を活用する等、工芸の魅力をわかりやすく発信している。今後、講演会やワークショップなどの展覧会関連イベントのほか、こどもから大人まで楽しめるプログラムの開催を検討予定。

また、国立工芸館 YouTube チャンネルにおいて、教育普及プログラムの公開等を行っている。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

スマートフォンアプリを活用した作品解説を導入しているほか、工芸作品への理解をもつていただく導入部として、1階展示室1の前に「工芸とであう」というコーナーを設置。高精細（8K）モニターを使用し、所蔵する代表的な作品（53点）を紹介している。

・2D所蔵作品解説システム（インタラクティブ鑑賞ウォール）

一般の方に判り難い工芸作品の材質・技法などを作品ごとにタッチパネル方式により解説。

・3D鑑賞システム（8Kインタラクティブミュージアム）

展示されている工芸作品では観覧できない背面、内面及び裏面などをタッチパネルの操作により回転させることにより鑑賞できる。



- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

館内の案内は英語表記を原則として表示するほか、2D所蔵作品解説システムの導入にあたっては、文字情報の多言語（日・英・中・韓）化を行い、館内で配布する展示作品パンフレット等についても和・英のバイリンガルで提供し、ホームページは日本語・英語に対応している。

本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

①魅力ある展覧会の開催

県立美術館と連携した宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の特別展（R5 予定）等、国立博物館・美術館等から名品を借り受けた展覧会や、「工芸」などの共通テーマを設けた展覧会を周辺の国立工芸館や県立歴史博物館と連携して開催することで相乗効果を発揮し、より集客力のある展覧会を開催する。

②文化資源を活用した地域の魅力発信

文化資源を活用した地域の魅力発信、賑わい創出、周遊促進を目的とした各種イベントの開催を通じ、施設の魅力を伝えるほか、情報発信を強化し、国内外の来客を促す。

・工芸文化の魅力発信

県立美術館、県立歴史博物館と連携し、学芸員の解説付きで特別展を巡るツアーを開催し、展示の理解を深めてもらう仕組みを作るほか、単に見るだけでなく、実際に作品と触れ合うワークショップや、人間国宝等による講演会を開催する。

・建築文化の魅力発信

建物解説・紹介パンフレットの作成や、周辺施設と連携したレトロ建築巡りツアー等を開催し、兼六園周辺文化の森でのアーキテクチャーツーリズムを促進する。

・夜の賑わい創出

観光客に長く金沢での観光を楽しんでもらうため、地域の夜の魅力を創出する。国立工芸館を含む市内の観光地をライトアップすることで、夜の回遊を促すとともに、夜間開館を行い、特別な夜のミュージアムを体験してもらう。

- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

①高精細画像を活用した観覧の充実・整備

- ・高精細（8K）モニターで工芸作品の材質・技法などを作品ごとに解説する2D所蔵作品解説システム（インタラクティブ鑑賞ウォール）の解説作品を年間30作品程度、R3～7年で150点を目標に拡充する。

- ・高精細（8K）モニターで展示では観覧できない工芸作品の背面、内面及び裏面などをのタッチパネルの操作で回転させることにより鑑賞できる3D鑑賞システム（8Kインタラクティブミュージアム）の解説作品を年間1作品、R7年までに5点を目標に拡充する。

②ホームページ上で、作家のインタビュー動画等の配信を計画。

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

①多言語解説事業

館内の案内について英語表記を原則に観覧環境への影響が少ない場所については中国語・韓国語も導入、展示室内のサインや展示解説等の日本語・英語表記に加えて、作品解説アプリケーション、音声ガイドは中国語も導入、2D所蔵作品解説システムの紹介作品の増加に対応して文字情報の多言語（日・英・中・韓）化等を実施予定。松田権六の工房の移築・復元に合わせて公開している工芸技術記録映画（蒔絵）ナレーションの多言語化（日・英・中・韓）の実施。多言語解説の作成にあたっては「魅力的な多言語解説作成指針」（観光庁）に沿って実施する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築
石川県観光戦略推進部観光企画課および金沢市経済局観光政策課を含む県市関係課、地域内の文化施設、文化観光推進事業者で組織する「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」の一員として、地域の文化観光の推進に取り組む。
- ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析
美術館の運営に資するため実施する利用者アンケートにより、満足度等のデータを把握している。
- ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
「兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会」において、方針となる地域計画（KPIを含む）の策定等を行う。

本計画における取組

- ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築
外国人をはじめとした観光客の満足度向上と地域における経済波及効果を拡大するため、文化観光推進事業者と連携し、高付加価値体験を提供する滞在型コンテンツの造成に努める。
- ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析
利用者アンケートによる満足度等のデータの把握のほか、県市観光部局による観光動態調査等の調査結果の提供を受け、施設を取り巻く観光客の動向等について状況を把握し、文化観光の取組に活用する。
- ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会において、適切なKPIの設定や事業の見直しを行う。各プランにて指標を定めてモニタリングするとともに、特にプラン見直し時点において振り返りの場を設けて、文化観光推進事業者等から改善に向けた指摘をもらうことで、PDCAサイクルを効果的に進める。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

- ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
 - ①周辺商店街において移転開館をPRするバナーフラッグを掲示。
 - ②金沢駅等のデジタルサイネージでの展覧会紹介。

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

交通事業者や周辺商業施設、また近隣の宿泊施設など、新たな連携先の開拓と相乗効果を図ることができる取組を検討する。

8. 地域文化観光推進事業

8-1. 事業の内容

8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会開催事業
事業内容	<p>文化施設が観光拠点施設として機能するためには、展示内容の充実が不可欠であるため、国立博物館・美術館をはじめとした国内外の美術館等から名品を借り受け、魅力ある展覧会を開催するとともに、各館連携し、「工芸」などの共通テーマを設けた展覧会を開催することで、施設入館者数の底上げと回遊性の向上を図る。</p> <p>(具体の事業例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加賀百万石文武の誉れ展」(R3：県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> →前田家が皇室に献上した宮内庁三の丸尚蔵館の名品のほか、前田育徳会や国立博物館等が所蔵する前田家ゆかりの名品(国宝4点、重文11点)を公開 ・「大樋陶冶斎の世界展」(R3：県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> →文化勲章受章者で日本を代表する陶芸家の名品を一大公開 ・「北陸三県名品展」(R3：県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> →国際北陸工芸サミットにおける展覧会として、国立美術館などから近代工芸の名品を借用し、北陸三県の間人国宝・日本芸術院会員35人全員の作品を展示 ・前田家伝来 国指定重要文化財「百工比照」の展示 (R3：県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> →江戸時代の工芸の技術が結集した「百工比照」を前田育徳会から借用し展示 ・「大加州刀展」(R3：県立歴史博物館) <ul style="list-style-type: none"> →加賀の刀工たちが作った加州刀80振りが一堂に並ぶ大規模展覧会 ・「尾張徳川家の至宝展」(R3：県立歴史博物館) <ul style="list-style-type: none"> →国宝の美術工芸品など尾張徳川家伝来の至宝を公開 ・「国立工芸館 所蔵作品展・企画展」(R3：国立工芸館) <ul style="list-style-type: none"> →約4,000点の所蔵作品の中から近現代工芸の秀作を中心に展示 →所蔵作品の鑑賞、理解に資する小企画展やテーマ展などを開催 など <p>R4以降についても、展覧会を企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の特別展 (R5：県立美術館・国立工芸館) <ul style="list-style-type: none"> →国民文化祭にあわせて開催 ・金沢21世紀美術館 (R5～7で1～2回) <ul style="list-style-type: none"> →R6に20周年記念展を予定 ・市立中村記念美術館 (R5～7で1～2回) ・金沢能楽美術館 (R5～7で1～2回) <p>(対象施設：県立美術館、県立歴史博物館、金沢21世紀美術館、金沢能楽美術館、国立工芸館、石川四高記念文化交流館、いしかわ生活工芸ミュージアム、加賀本多博物館、金沢ふるさと偉人館、市立中村記念美術館、金沢くらしの博物館、前田土佐守家資料館)</p>
実施主体	石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公財) 金沢芸術創造財団
実施時期	R3～7
継続見込	自主財源で継続

アウトプット 目標	文化観光拠点施設の来訪者数 3,480 千人 (R7 年度)
必要資金 調達方法	955 百万円 (内訳: 485 百万円 (入館料) 340.9 百万円 (県費等) 54.1 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁) 75 百万円 (地方創生交付金 (内閣府))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-②)

事業名	VR技術を活用した文化資源の理解促進事業
事業内容	従来の展示鑑賞は、ガラス越し、一定方向からの鑑賞が一般的であり、解説も必要最低限のキャプションであったりと、作品・作者の背景や制作過程、用途について、一般の鑑賞者が把握するには限界があった。 文化資源の更なる理解促進を図るため、県立美術館において、国宝や国指定重要文化財を中心に所蔵品をVRで紹介するコンテンツを制作・公開する。普段手に取ることができない作品の細部を鑑賞できるほか、作品の制作過程や、歴史・ストーリーを映像でわかりやすく再現する。 (対象施設: 県立美術館)
実施主体	石川県
実施時期	R4~7
継続見込	計画内で終了
アウトプット 目標	県立美術館の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を95% (R5 年度)
必要資金 調達方法	125 百万円 (内訳: 100 百万円 (県費) 25 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-③)

事業名	高精細画像を活用した観覧の充実・整備事業
事業内容	国立工芸館において、8Kディスプレイのタッチパネルを使用し、所蔵作品のうち代表的な作品の解説や工芸作品の特徴的な技法解説等を高精細画像と多言語化 (和・英・中・韓) により紹介。 デジタル画像で作品を掲示し、これに触れることにより、その作品の作者解説、見どころ、技法や画面を拡大して展示環境では鑑賞できない細部を見ることが出来る2D作品解説システム (インタラクティブ鑑賞ウォール) の整備。 また、展示している工芸作品では観覧できない背面、内面及び裏面などをタッチパネルの操作により回転 (動かす) させることにより、鑑賞できる3D鑑賞システム (8Kインタラクティブミュージアム) の整備。 (対象施設: 国立工芸館)
実施主体	(独法) 国立美術館
実施時期	R3~R7
継続見込	自主財源及び補助金で継続

アウトプット 目標	2D：年間30作品程度で、150点を目途として、5年計画 3D：年間1作品を目標に5点程度を目標に、5年計画
必要資金 調達方法	25百万円（内訳：20.2百万円（運営費交付金（文化庁） 4.8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-④)

事業名	スマートフォン用ARアプリを活用した文化資源の理解及び回遊促進事業
事業内容	従来の展示鑑賞は、ガラス越し、一定方向からの鑑賞が一般的であり、解説も必要最低限のキャプションであったりと、用途など一般の鑑賞者や外国人が見て判断するには限界があった。AR（拡張現実）技術を用いて、展示品の3D画像（実物画像取込）による多方面からの閲覧や、展示物の動きや音声などの付加情報を加える展示機能を強化するスマートフォンアプリ（施設設置のiPadでの閲覧も可能）を作成・配布し、文化資源の理解促進を図る。 また、このスマートフォン用ARアプリを活用し、ARアプリ利用可能施設を積極的に案内する電子スタンプラリーを実施することで、拠点施設から近隣施設への施設間の回遊を促進する。 (対象施設：金沢21世紀美術館、金沢能楽美術館、金沢くらしの博物館、前田土佐守家資料館)
実施主体	金沢市、(公財)金沢芸術創造財団
実施時期	R3～R7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット 目標	金沢21世紀美術館、金沢能楽美術館、金沢くらしの博物館、前田土佐守家資料館の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を95%（R5年度）
必要資金 調達方法	28.5百万円（内訳：24.6百万円（市費等） 3.9百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-⑤)

事業名	文化資源の理解促進・展示機能強化事業
事業内容	・所蔵品のデジタルアーカイブ化 →文化資源の閲覧データを作成・公開することで、文化施設の回遊を促進するため、所蔵品のデジタルアーカイブ化を推進する。 (対象施設：県立美術館、県立歴史博物館、金沢21世紀美術館、石川四高記念文化交流館) ・スマートフォンの活用等による展示解説システムの整備 →スマートフォンで展示ガイドを利用できる仕組みを導入するほか、展示の目の前の観覧者にも音声が届ける高機能指向性スピーカーを導入する。 (対象施設：県立歴史博物館)

実施主体	石川県、金沢市、(公財)金沢芸術創造財団
実施時期	R3～R7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット 目標	県立美術館、県立歴史博物館、金沢 21 世紀美術館、石川四高記念文化交流館の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を 95% (R5 年度)
必要資金 調達方法	14.2 百万円 (内訳 : 11.7 百万円 (県費等) 2.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑥)

事業名	文化資源を活用した工芸文化の魅力発信事業
事業内容	<p>全国の工芸品を扱う国立工芸館の移転開館により、藩政期から伝わる美術工芸品を扱う県立美術館、現代の暮らしに生きるクラフトを扱ういしかわ生活工芸ミュージアム、金沢 21 世紀美術館と併せ、日本の工芸の全ぼうを鑑賞できるエリアとなった。そこで、兼六園周辺文化の森を「日本工芸の発信拠点」として、国内外にその魅力を広く発信する。</p> <p>(具体の事業例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「工芸」をテーマとした展覧会を各館連携し開催 (再掲 (事業番号 1-①) 参照) <ul style="list-style-type: none"> →「国立工芸館石川移転開館記念展」(R3 : 国立工芸館) <ul style="list-style-type: none"> 国立工芸館が所蔵する近代工芸の名品を一堂に公開 →「北陸三県名品展」(R3 : 県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> 国際北陸工芸サミットにおける展覧会として、国立美術館などから近代工芸の名品を借用し、北陸三県の間人国宝・日本芸術院会員 35 人全員の作品を展示 →「大樋陶冶斎の世界展」(R3 : 県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> 文化勲章受章者で日本を代表する陶芸家の名品を一大公開 →国指定重要文化財「百工比照」の展示 (R3 : 県立美術館) <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の工芸の技術が結集した「百工比照」を前田育徳会から借用し展示 →「大加州刀展」(R3 : 県立歴史博物館) <ul style="list-style-type: none"> 加賀の刀工たちが作った加州刀 80 振りが一堂に並ぶ大規模展覧会 →「尾張徳川家の至宝展」(R3 : 県立歴史博物館) <ul style="list-style-type: none"> 国宝の美術工芸品など尾張徳川家伝来の至宝を公開 →「金沢 21 世紀美術館開館 20 周年記念展 (仮称)」(R6 : 金沢 21 世紀美術館) <ul style="list-style-type: none"> 所蔵する工芸作品などの展示を通じ、これまでの歩みを紹介 ・展覧会を巡る解説ツアーの開催 <ul style="list-style-type: none"> →国立工芸館、県立美術館、県立歴史博物館等の特別展を学芸員の解説付きで巡るツアーを開催し、参加者の工芸に対する理解の深化と満足度の向上を図る ・全国、いしかわの工芸を紹介する講演会やワークショップを開催 (県立美術館、国立工芸館など) <ul style="list-style-type: none"> →県内外の間人国宝など著名作家を招聘した講演会や、全国・いしかわの伝統工


	<p>芸制作体験ワークショップをいしかわ生活工芸ミュージアム等で開催し、この地でしか味わえない体験を提供</p> <p>(対象施設：国立工芸館、県立美術館、県立歴史博物館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館、いしかわ生活工芸ミュージアム、市立中村記念美術館)</p>
実施主体	石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公財) 金沢芸術創造財団、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R3～R7 年度
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	文化観光拠点施設の来訪者数 3,480 千人 (R7 年度)
必要資金調達方法	<p>47 百万円 (内訳：36.5 百万円 (県費等) 10.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)))</p> <p>※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号 1-⑦)

事業名	文化資源を活用した建築文化の魅力発信事業
事業内容	<p>旧陸軍の施設を活用した国立工芸館の開館を機に、近代建築の県立歴史博物館や石川四高記念文化交流館、現代建築の金沢 21 世紀美術館や鈴木大拙館など、兼六園周辺文化の森に集積する建造物と建築文化の魅力を発信し、アーキテクチャーツーリズムを推進する。</p> <p>(具体の事業例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近現代建築巡りツアーの開催 <ul style="list-style-type: none"> →近現代建築物の見どころや故事来歴をガイドの解説付きで巡るツアーを開催。見学だけでなく、建築物の中で本県ならではの食事が堪能できるなどユニークベニューによる特別感を提供し、参加者の満足度を高める。 ・対象施設において建築に関する資料展示の充実を図り、施設解説用パンフレットを作成するなど、圏域全体で実施する建築文化の魅力を発信する。 ・建築ボランティアガイドの養成 <ul style="list-style-type: none"> →建築物の解説を担うボランティアガイドを養成し、事業を持続可能なものとする。 <p>(対象施設：国立工芸館、県立歴史博物館、石川四高記念文化交流館、石川県政記念しいのき迎賓館、県立美術館広坂別館、いしかわ生活工芸ミュージアム、金沢くらしの博物館、金沢 21 世紀美術館、鈴木大拙館)</p>
実施主体	金沢市、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R3～R7 年度
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	解説ツアーやリーフレットの作成により、アーキテクチャーツーリズムを促進するとともに、エリア一帯の回遊性を向上。
必要資金調達方法	20 百万円 (内訳：15.6 百万円 (県費等) 4.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)))

※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑧)

事業名	文化資源を活用した夜の賑わい創出事業
事業内容	<p>インバウンドをはじめとした観光客の滞在日数を増加させるには、夜の魅力創出が重要なテーマであるため、各施設が連携して夜間イベントを開催し、昼だけでなく夜も楽しめるエリアを作り上げる。</p> <p>(具体の事業例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライトアップと夜間開館 <ul style="list-style-type: none"> →兼六園や金沢城公園をはじめ、国立工芸館などの周辺施設でも連携してライトアップを実施するほか、壁面や地面にデジタル映像を投影する「デジタル掛け軸」を開催し、屋外で光による夜の賑わい創出を図りながら、夜間開館も行い、観光客に夜の美術館を堪能してもらう。  <p style="text-align: center;">デジタル掛け軸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイトミュージアム事業 <ul style="list-style-type: none"> →対象施設の夜間ライトアップのほか、展覧会与連携したミュージアムコンサート（伝統工芸の展覧会に併せ輪島塗のヴァイオリンを演奏等）など日替わりで夜間イベントを開催 (対象施設：国立工芸館、県立美術館、県立歴史博物館、石川四高記念文化交流館、いしかわ生活工芸ミュージアム、石川県政記念しいのき迎賓館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館、市立中村記念美術館、金沢くらしの博物館、鈴木大拙館、兼六園、金沢城公園、)
実施主体	石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公財) 金沢芸術創造財団、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R3～R7 年度
継続見込	自主財源で継続
アウトプット 目標	ライトアップやミュージアムコンサートなど、エリア一帯で連携してイベントを開催し、夜の魅力を創出することで、インバウンドをはじめとした観光客の滞在日数を増加。
必要資金 調達方法	<p>43.5 百万円 (内訳：32.1 百万円 (県費等) 11.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)))</p> <p>※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号 1-⑨)

事業名	展示情報等の多言語化推進事業
事業内容	<p>増加するインバウンドに対応するため、外国人観光客が展示物の背景やストーリーの理解を深められるよう、ネイティブが解説の作成と確認を行うとともに、ARなどの最新技術も活用しながら多言語化を推進する。</p> <p>なお、多言語化にあたっては、観光庁が示す「魅力的な多言語解説作成指針」に基づいて取り組むものとする。</p> <p>(対象施設：県立美術館、県立歴史博物館、石川四高記念文化交流館、石川県政記念しいのき迎賓館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館、鈴木大拙館、市立中村記念美術館、金沢くらしの博物館)</p>
実施主体	石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公財) 金沢芸術創造財団、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R3~7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	文化観光拠点施設の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した訪日外国人の割合を 95% (R5 年度)
必要資金調達方法	<p>34 百万円 (内訳：26.1 百万円 (県費等) 7.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)))</p> <p>※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号 1-⑩)

事業名	インフォメーションサービス事業
事業内容	<p>海外からの観光客をターゲットに金沢 21 世紀美術館の魅力伝えるコンテンツとして、アーティストや学芸員によるツアーのオンライン動画、バーチャル映像などのデジタルコンテンツを作成し、配信する。</p> <p>また、上記コンテンツや所蔵作品デジタルアーカイブ、地域回遊促進等に関する情報等を効果的に発信するため、情報アクセシビリティが課題となっている金沢 21 世紀美術館ホームページをリニューアルし、コンテンツ発信力の強化やユーザーの利便性を向上するだけでなく、ユニバーサルデザインを取り入れ年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人を使いやすいよう整備する。</p> <p>(対象施設：金沢 21 世紀美術館)</p>
実施主体	金沢市、(公財) 金沢芸術創造財団
実施時期	R3 (試行) ~R7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	金沢 21 世紀美術館の訪日外国人の来訪者数 5.1 人 (R7 年度)
必要資金調達方法	<p>25.7 百万円 (内訳：13.2 百万円 (市費等) 12.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)))</p> <p>※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 2-①)

事業名	受付サービスのデジタル化促進事業
事業内容	現在の交通系 IC カードやクレジットカードによる決済手段のほか、QRコード決済を追加するキャッシュレスメニューの充実と、金沢市文化施設共通観覧券のデジタルチケット化などのインターネットを介した入館チケットの事前購入を促進することで、受付混雑などを解消し、来館者の利便性の向上を図る。 (対象施設：市立中村記念美術館、金沢くらしの博物館、鈴木大拙館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館、前田土佐守家資料館)
実施主体	金沢市、(公財) 金沢芸術創造財団
実施時期	R3~7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット 目標	対象施設(市立中村記念美術館、金沢くらしの博物館、鈴木大拙館、金沢 21 世紀美術館、金沢能楽美術館、前田土佐守家資料館)の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した訪日外国人の割合を 95% (R5 年度)
必要資金 調達方法	20.8 百万円 (内訳：20.8 百万円 (市費等))

(事業番号 2-②)

事業名	相互割引による展覧会誘客促進事業
事業内容	国立工芸館の開館を機に、周辺文化施設の回遊を促進し、入館者の増加を図るため、各施設の入館料の相互割引を実施する。 →展覧会の入場券の半券を提示すると、他の施設の観覧料を割引。「工芸」などの共通テーマを設けた展覧会を連携して開催し、展覧会の内容や割引制度について一体的に情報発信する。 (対象施設：県立美術館、県立歴史博物館、いしかわ生活工芸ミュージアム、金沢 21 世紀美術館、市立中村記念美術館、金沢ふるさと偉人館、国立工芸館)
実施主体	石川県、金沢市、(独法) 国立美術館、(公財) 金沢芸術創造財団、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R3~7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット 目標	相互割引の利用者数 14,000 人 (R7 年度)
必要資金 調達方法	1.5 百万円 (内訳：1.5 百万円 (県費))

8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	近隣商店街等と連携した地域活性化推進事業
事業内容	街中のクラフト店舗等との展示協力や、近隣商店街との割引等による連携により、アートとクラフト、公と民間の枠を超えて接続し、観光客を市内に誘導する仕組みを構築する。 (対象施設：金沢21世紀美術館、金沢能楽美術館)
実施主体	金沢市、(公財)金沢芸術創造財団
実施時期	R3~7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	対象施設(金沢21世紀美術館、金沢能楽美術館)の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した訪日外国人の割合を95%(R5年度)
必要資金調達方法	15百万円(内訳:12.1万円(市費等) 2.9百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号3-②)

事業名	高付加価値体験を提供する滞在型コンテンツ造成事業
事業内容	「工芸」、「和文化」など本県ならではの文化資源を活かし、国内外の富裕層やコレクター、カルチャーツアーに関心の高い層をターゲットに、モーニングツアーやナイトミュージアム、高付加価値の体験コンテンツを造成する。 ・金沢21世紀美術館における特別感のあるナイトミュージアムの実施 例) 事前募集した参加者のみを学芸員が案内し、普段見ることのできない夜のスイミング・プールなど、特別間を演出するナイトミュージアムを実施する。 ・鈴木大拙館における思索に触れる体験 例) 早朝に思索空間と外部回廊を限定開放し、静寂な朝の時間に思索体験してもらうプログラムを実施する。 ・金沢能楽美術館におけるミニ能楽体験の実施 例) 能装束の着装や楽器の体験がセットになったミニ能楽体験プログラムを実施する。
実施主体	金沢市、金沢市観光協会、(公財)金沢芸術創造財団
実施時期	R3~7
継続見込	自主財源で継続
アウトプット目標	文化観光拠点施設の来館者アンケートにおいて、「大変満足」、「満足」と回答した人の割合を95%(R7年度)
必要資金調達方法	104百万円(内訳:66.9百万円(市費等) 20百万円(高付加価値化促進事業(文化庁)) 17.1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	訪日外国人に向けた着地型情報整備事業
事業内容	<p>訪日外国人が地域の情報に速やかにアクセスできるよう、現在、国、県、金沢市が共同で運用している地域の広報ホームページの多言語化を図る。</p> <p>各施設の文化資源の魅力や多言語解説の有無等文化施設の基本情報のほか、展覧会やイベントのスケジュール、更には、共通パスポートや展覧会の相互割引などのお得情報をインターネットで一元的に取得できる環境を整える。</p> <p>なお、当事業は日本政府観光局（JNTO）と協議のうえ実施する。</p>
実施主体	兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会
実施時期	R6
継続見込	計画内で終了
アウトプット目標	文化観光拠点施設における訪日外国人の来訪者数 61,600 千人（R7 年度）
必要資金調達方法	<p>1 百万円（内訳：0.7 百万円（県費等） 0.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））</p> <p>※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号 4-②)

事業名	兼六園周辺文化の森の一体的な情報発信事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内文化施設の一体的かつ効果的な広報を展開するため、国、石川県、金沢市が連携し、地域内全施設の展覧会やイベント情報、交通アクセスなどの情報を網羅したリーフレットや施設の見どころとマップが一体となった携帯ツールを作成し、R2 年度に金沢市中心部に開設した観光案内所等に配架する。 ・ 金沢駅、香林坊の近隣宿泊施設と連携し、上記のリーフレットやマップをロビー等施設内に配架するとともに、コンシェルジェ等に外国人向けイベントなどの情報を提供し、宿泊客へのPRを促す。 ・ 地域で開催中の展覧会やイベントの情報、アクセスマップを掲示した看板を作成し、多くの観光客が訪れる兼六園や金沢城公園、観光案内所に設置することで、現在、拠点施設等で何を観て・何ができるかPRし、来訪を促す。 ・ 石川県、金沢市の観光・文化の魅力を旅行代理店にPRするため、春と秋の年2回プロモーション会議を開催するとともに、観光キャラバンにより、ツアーの商品化に向けた取り組みを強化する。 ・ 金沢、兼六園周辺文化の森エリアの魅力を観光客にわかりやすく伝えるため、地域内の観光案内業務を担う石川県政記念しいのき迎賓館で放映するPR動画を作成する。 ・ 兼六園周辺文化の森のジオラマを最新の情報に更新し、エリア一帯の位置情報を立体的に紹介する。
実施主体	石川県、兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会、石川県観光連盟、金沢市観光協会
実施時期	R3～7
継続見込	自主財源で継続

アウトプット 目標	文化観光拠点施設の来訪者数 3,480 千人 (R7 年度)
必要資金 調達方法	29 百万円 (内訳: 21 百万円 (県費等) 8 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8-1-5. 1. ~4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号 5-①)

事業名	県立美術館展示室照明の改修事業
事業内容	事業番号 1-①「地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会開催事業」に取り組むため、県立美術館展示室照明の LED 化を進める。 (対象施設: 県立美術館)
実施主体	石川県
実施時期	R4
継続見込	計画内で終了
アウトプット 目標	文化資源の損傷を防ぐとともに、展示物に相応しい観覧環境を整備する。
必要資金 調達方法	320 百万円 (内訳: 290 百万円 (県費) 30 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 5-②)

事業名	県立歴史博物館のエレベーター改修事業
事業内容	事業番号 1-①「地域の文化資源を活用した魅力ある展覧会開催事業」に取り組むため、来館者用バリアフリーエレベーターと展示物搬入出用エレベーターを改修する。 (対象施設: 県立歴史博物館)
実施主体	石川県
実施時期	R5
継続見込	計画内で終了
アウトプット 目標	バリアフリーに対応することで多くの方に来館いただくとともに、展示物の搬入経路を確保し、国立博物館等から指定文化財等の借用を促進する。
必要資金 調達方法	7 百万円 (内訳: 5.1 百万円 (県費) 1.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))) ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 5-③)

事業名	兼六園周辺文化の森紹介ジオラマ改修事業
事業内容	事業番号 4-②「兼六園周辺文化の森の一体的な情報発信事業」に取り組むため、県立歴史博物館に設置している計画地域のジオラマを最新のものに改修する。 (対象施設: 県立歴史博物館)

実施主体	石川県
実施時期	R5
継続見込	計画内で終了
アウトプット 目標	計画地域のジオラマを最新のものに更新し、金沢市中心部の環境や位置情報を立体的に紹介する。
必要資金 調達方法	5百万円（内訳：3.6百万円（県費） 1.4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号5-④)

事業名	建築文化レガシー継承事業
事業内容	文化資源を活用した建築文化の魅力発信事業（事業番号1-⑦）における建築巡りツアーのうち、計画区域内の現代建築を代表格の施設として、また、高付加価値体験を提供する滞在型コンテンツ造成事業（事業番号3-②）における思索体験のために、建築物自体が魅力であり作品である鈴木大拙館（建築家・谷口吉生氏設計）の美的景観の回復や機能充実を図ることで、拠点施設である金沢 21 世紀美術館及び国立工芸館や、連携施設で建築家・谷口吉郎氏（吉生氏実父）設計のいしかわ生活工芸ミュージアムとの新たな周遊を強化する。 (対象施設：鈴木大拙館)
実施主体	金沢市
実施時期	R3~6
継続見込	計画内で終了
アウトプット 目標	鈴木大拙館の来訪者数 8万人（R7年度）
必要資金 調達方法	55.9百万円（内訳：41.7百万円（市費） 14.2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等において、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8-2. 特別の措置に関する事項

8-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 (法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実施の方法 (※)	
工事期間 (※)	
復旧方法 (※)	
関係協議先	

8-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和3年度	280.6百万円	事業番号1-①	191百万円	97百万円(入館料) 71.5百万円(県費等) 7.5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁)) 15百万円(地方創生交付金(内閣府))
		事業番号1-③	5百万円	5百万円(運営費交付金(文化庁))
		事業番号1-④	1.1百万円	1.1百万円(市費)
		事業番号1-⑤	4.2百万円	4.2百万円(市費)
		事業番号1-⑥	9.4百万円	8.2百万円(県費等) 1.2百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑦	4百万円	3.2百万円(県費等) 0.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑧	8.7百万円	5.2百万円(県費等) 3.5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑨	2百万円	2百万円(県費等)
		事業番号1-⑩	1.1百万円	1.1百万円(市費)
		事業番号2-①	16.8百万円	16.8百万円(市費)
		事業番号2-②	0.3百万円	0.3百万円(県費)
		事業番号3-①	3百万円	3百万円(市費)
		事業番号3-②	27.2百万円	7.2百万円(市費等) 20百万円(高付加価値化促進事業補助金(文化庁))
		事業番号4-②	5.8百万円	3.3百万円(県費) 2.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号5-④	1百万円	1百万円(市費)
令和4年度	663.8百万円	事業番号1-①	191百万円	97百万円(入館料) 74百万円(県費等) 5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁)) 15百万円(地方創生交付金(内閣府))
		事業番号1-②	50百万円	45百万円(県費) 5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-③	5百万円	4.4百万円(運営費交付金(文化庁)) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	21.1百万円	19百万円(市費等) 2.1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	2.5百万円	2.1百万円(県費等) 0.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))

		事業番号1-⑥	9.4百万円	8.4百万円(県費等)	1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑦	4百万円	3.6百万円(県費等)	0.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑧	8.7百万円	7.8百万円(市費等)	0.9百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑨	8百万円	7.2百万円(県費等)	0.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑩	9.9百万円	4.5百万円(市費等)	5.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号2-①	1百万円	1百万円(市費等)			
		事業番号2-②	0.3百万円	0.3百万円(県費)			
		事業番号3-①	3百万円	2.6百万円(市費等)	0.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号3-②	19.2百万円	17.3百万円(市費等)	1.9百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号4-②	5.8百万円	5.2百万円(県費等)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号5-①	320百万円	290百万円(県費)	30百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号5-④	4.9百万円	4.4百万円(市費)	0.5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
令和5年度	333.9百万円	事業番号1-①	191百万円	97百万円(入館料)	65.2百万円(県費等)	13.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))	15百万円(地方創生交付金(内閣府))
		事業番号1-②	25百万円	18.3百万円(県費)	6.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-③	5百万円	3.6百万円(運営費交付金(文化庁))	1.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-④	2.1百万円	1.5百万円(市費等)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑤	2.5百万円	1.8百万円(県費等)	0.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑥	9.4百万円	6.6百万円(県費等)	2.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑦	4百万円	3百万円(県費等)	1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑧	8.7百万円	6.4百万円(県費等)	2.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑨	8百万円	5.8百万円(県費等)	2.2百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号1-⑩	9.9百万円	4.2百万円(市費等)	5.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		
		事業番号2-①	1百万円	1百万円(市費等)			
		事業番号2-②	0.3百万円	0.3百万円(県費)			
		事業番号3-①	3百万円	2.2百万円(市費等)	0.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))		

		事業番号3-②	19.2 百万円	14.1 百万円 (市費等) 5.1 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-②	5.8 百万円	4.2 百万円 (県費等) 1.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-②	7 百万円	5.1 百万円 (県費) 1.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-③	5 百万円	3.6 百万円 (県費) 1.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-④	27 百万円	20 百万円 (県費) 7 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和6年度	311.4 百万円	事業番号1-①	191 百万円	97 百万円 (入館料) 64.6 百万円 (県費等) 14.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) 15 百万円 (地方創生交付金 (内閣府))
		事業番号1-②	25 百万円	17.7 百万円 (県費) 7.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-③	5 百万円	3.5 百万円 (運営費交付金 (文化庁)) 1.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-④	2.1 百万円	1.5 百万円 (市費等) 0.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑤	2.5 百万円	1.8 百万円 (県費等) 0.7 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑥	9.4 百万円	6.4 百万円 (県費等) 3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑦	4 百万円	2.8 百万円 (県費等) 1.2 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑧	8.7 百万円	6.2 百万円 (県費等) 2.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑨	8 百万円	5.1 百万円 (県費等) 2.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号1-⑩	2.4 百万円	1.7 百万円 (市費等) 0.7 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号2-①	1 百万円	1 百万円 (市費等)
		事業番号2-②	0.3 百万円	0.3 百万円 (県費)
		事業番号3-①	3 百万円	2.1 百万円 (県費等) 0.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号3-②	19.2 百万円	13.6 百万円 (市費等) 5.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-①	1 百万円	0.7 百万円 (県費等) 0.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号4-②	5.8 百万円	4.1 百万円 (県費等) 1.7 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号5-④	23 百万円	16.3 百万円 (市費) 6.7 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和7年度	287.4 百万円	事業番号1-①	191 百万円	97 百万円 (入館料) 65.6 百万円 (県費等) 13.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) 15 百万円 (地方創生交付金 (内閣府))
		事業番号1-②	25 百万円	19 百万円 (県費) 6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))

		事業番号1-③	5百万円	3.7百万円(運営費交付金(文化庁)) 1.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2.1百万円	1.5百万円(市費等) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	2.5百万円	1.8百万円(県費等) 0.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑥	9.4百万円	6.9百万円(県費等) 2.5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑦	4百万円	3百万円(県費等) 1百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑧	8.7百万円	6.5百万円(県費等) 2.2百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑨	8百万円	6百万円(県費等) 2百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号1-⑩	2.4百万円	1.7百万円(市費等) 0.7百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	1百万円	1百万円(市費等)
		事業番号2-②	0.3百万円	0.3百万円(県費)
		事業番号3-①	3百万円	2.2百万円(県費等) 0.8百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号3-②	19.2百万円	14.7百万円(市費等) 4.5百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
		事業番号4-②	5.8百万円	4.5百万円(県費) 1.3百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁))
合計	1,877.1百万円			

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

9. 計画期間

令和3（2021）年度～令和7（2025）年度